

基本計画書

基 本 計 画									
事 項		記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分		研究科の専攻の設置（国際連携専攻）							
フリガナ 設置者		コクリツダイガクホウジンヒロシマダイガク 国立大学法人広島大学						【連携外国大学の設置者】 オーストリア共和国	
フリガナ 大学の名称		ヒロシマダイガクダイガクイン 広島大学大学院（Graduate School of Hiroshima University）						【連携外国大学の名称】 University of Graz （Universität Graz）	
大学本部の位置		広島県東広島市鏡山一丁目3番2号						【連携外国大学の本部の位置】 Universitätsplatz 3, 8010 Graz, Austria	
大学の目的		「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、次に掲げる理念に基づき、未来を担う有能な人材を養成するとともに学術を継承・発展させ、もって地域社会及び国際社会の発展に貢献するものとする。 （1） 平和を希求する精神 （2） 新たな知の創造 （3） 豊かな人間性を培う教育 （4） 地域社会・国際社会との共存 （5） 絶えざる自己変革							
新設学部等の目的		2030 年のSDGs達成に向けて、先進国・途上国を問わずあらゆる組織において専門知識の獲得が緊急課題であり、高度専門職業人材の確保が必要となっている。 本専攻では、SDGs 達成に向けた地域と世界の喫緊の課題、とりわけ、貧困の削減に対して、開発学における国際協力論を基盤にし、社会科学的研究のアプローチで研究や実務を遂行できる能力を有するとともに、大学・研究機関、政府・国際機関、民間企業、NGO 等において、他者と協働できる高いコミュニケーション能力を有し、国際的な労働市場で高い就職力（Employability）を発揮できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【連携外国大学の学部等名及び所在地】 Faculty of Environmental And Regional And Educational Sciences Merangasse 18/I, A-8010 Graz, Austria ＜ ＞内の数字は、母体となる研究科全体の入学定員等
	人間社会科学研究科 [Graduate School of Humanities and Social Sciences]	2	2 ＜420＞	— 年次人	4 ＜840＞	修士（学術） （Master of Science）	令和2年10月 第1年次	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	
	広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻 [Joint International Master's Programme in Sustainable Development （Hiroshima University and University of Graz）]								
	計		2	—	4				

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		○ 学生募集の停止 大学院総合科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 総合科学専攻 (△M50, △D17) 大学院文学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 人文学専攻 (△M64, △D32) 大学院教育学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 教職開発専攻 (△P20), 学習開発学専攻 (△M20), 教科教育学専攻 (△M80), 日本語教育学専攻 (△M14), 教育学専攻 (△M14), 心理学専攻 (△M19), 高等教育学専攻 (△M5), 教育学習科学専攻 (△D49) 大学院社会科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 法政システム専攻 (△M24, △D5), 社会経済システム専攻 (△M28, △D8), マネジメント専攻 (△M28, △D14) 大学院理学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 数学専攻 (△M22, △D11), 物理科学専攻 (△M30, △D13), 化学専攻 (△M23, △D11), 地球惑星システム学専攻 (△M10, △D5) 大学院先端物質科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 量子物質科学専攻 (△M25, △D12), 半導体集積科学専攻 (△M15, △D7) 大学院工学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 機械システム工学専攻 (△M28, △D9), 機械物理工学専攻 (△M30, △D10), システムサイバネティクス専攻 (△M34, △D11), 情報工学専攻 (△M37, △D13), 化学工学専攻 (△M24, △D8), 応用化学専攻 (△M26, △D9), 社会基盤環境工学専攻 (△M20, △D7), 輸送・環境システム専攻 (△M20, △D7), 建築学専攻 (△M21, △D7) 大学院国際協力研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 開発科学専攻 (△M43, △D22), 教育文化専攻 (△M28, △D14) 大学院法務研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 法務専攻 (△P20) ○ その他 (令和元年6月事前伺い) 大学院人間社会科学研究科 人文社会科学専攻 (M257, D85), 教育科学専攻 (M163, D50), 教職開発専攻 (P30), 実務法学専攻 (P20) 大学院先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻 (M449, D128) (令和元年8月意見伺い) 大学院先進理工系科学研究科 広島大学・ライブツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻 (M2)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻	講義 55科目	演習 19科目	実験・実習 1科目	計 75科目	60単位			
教員	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
組	新設	人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻 (修士課程)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	46人 (46)
	分	計	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	— (—)
組織の	既設	人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期)	103人 (103)	93人 (93)	6人 (6)	17人 (17)	219人 (219)	0人 (0)	123人 (123)
		人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程後期)	95 (95)	89 (89)	4 (4)	1 (1)	189 (189)	0 (0)	34 (34)
		人間社会科学研究科教育科学専攻 (博士課程前期)	64 (64)	56 (56)	8 (8)	1 (1)	129 (129)	0 (0)	146 (146)
		人間社会科学研究科教育科学専攻 (博士課程後期)	66 (66)	56 (56)	4 (4)	0 (0)	126 (126)	0 (0)	40 (40)
		人間社会科学研究科教職開発専攻 (専門職学位課程)	6 (6)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	120 (120)
		人間社会科学研究科実務法学専攻 (専門職学位課程)	14 (15)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	85 (85)
		先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程前期)	121 (121)	109 (109)	5 (5)	79 (79)	314 (314)	0 (0)	104 (104)
		先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程後期)	121 (121)	107 (107)	3 (3)	47 (47)	278 (278)	0 (0)	50 (50)
		先進理工系科学研究科広島大学・ライブツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻 (修士課程)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		統合生命科学研究科統合生命科学専攻 (博士課程前期)	48 (48)	49 (49)	6 (6)	36 (36)	139 (139)	0 (0)	134 (134)
		【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1人 職名：准教授 所属：人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻							
		令和元年6月事前伺い							
		令和元年8月意見伺い							

【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】
人数：1人
職名：准教授
所属：人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻

令和元年6月事前伺い

令和元年8月意見伺い

概 要	分	統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程後期）		44 (44)	49 (49)	6 (6)	30 (30)	129 (129)	0 (0)	39 (39)					
		医系科学研究科医歯薬学専攻（博士課程）		52 (52)	40 (40)	22 (22)	34 (34)	148 (148)	0 (0)	69 (69)					
		医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程前期）		84 (84)	32 (32)	25 (25)	25 (25)	166 (166)	0 (0)	151 (151)					
		医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程後期）		40 (40)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	50 (50)	0 (0)	99 (99)					
		計		453 (454)	371 (371)	68 (68)	186 (186)	1078 (1079)	0 (0)	－ (－)					
		合 計		453 (454)	372 (372)	68 (68)	186 (186)	1079 (1080)	0 (0)	－ (－)					
教員 以外 の職 員の 概要	職 種		専 任		兼 任		計		申請大学全体						
	事 務 職 員		523人 (523)		938人 (938)		1,461人 (1,461)								
	技 術 職 員		1,119人 (1,119)		211人 (211)		1,330人 (1,330)								
	図 書 館 専 門 職 員		26人 (26)		0人 (0)		26人 (26)								
	そ の 他 の 職 員		4人 (4)		352人 (352)		356人 (356)								
	計		1,672人 (1,672)		1,501人 (1,501)		3,173人 (3,173)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計						
	校 舎 敷 地		951,632㎡		0㎡		0㎡		951,632㎡						
	運 動 場 用 地		244,009㎡		0㎡		0㎡		244,009㎡						
	小 計		1,195,641㎡		0㎡		0㎡		1,195,641㎡						
	そ の 他		1,134,377㎡		0㎡		0㎡		1,134,377㎡						
	合 計		2,330,018㎡		0㎡		0㎡		2,330,018㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計						
			514,567㎡ (514,567㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		514,567㎡ (514,567㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
		203室		365室		1,393室		15 室 (補助職員 20人)		8 室 (補助職員 18人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数								
			人間社会科学研究科広島大学・グラーツ 大学国際連携サステイナビリティ学専攻				10 室								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		専攻単位で特定 不能なため、申 請大学全体の数
	人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ 大学国際連携サステイ ナビリティ学専攻		3,494,421 [1,315,991] (3,494,421 [1,315,991])		61,208 [25,362] (61,208 [25,362])		5,769 [5,762] (5,769 [5,762])		5,637 (5,637)		12,757 (12,757)		133 (133)		
	計		3,494,421 [1,315,991] (3,494,421 [1,315,991])		61,208 [25,362] (61,208 [25,362])		5,769 [5,762] (5,769 [5,762])		5,637 (5,637)		12,757 (12,757)		133 (133)		
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			申請大学全体			
			29,485 ㎡			2,110			3,117,972						
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要									
			11,384㎡			野球場，陸上競技場，サッカー・ラグビー場 外									
経 費 の 見 積 り 方 法 の 概 要	経費 の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費(運営費交付金)による				
		教員1人当り研究費等													
		共同研究費等													
		図 書 購 入 費													
		設 備 購 入 費													
	学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次							
		千円		千円	千円	千円	千円	千円	千円						
		学生納付金以外の維持方法の概要													
既設 大学 等の 状	大 学 の 名 称 広島大学														
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地					
	総合科学部		年	人	年次 人	人		1.05	倍	広島県東広島市鏡山一丁目7番1号					

況	総合科学科	4	120	—	500	学士(総合科学)	1.05	昭49		平成30年度入学 定員減(△10人)
	国際共創学科	4	40	—	80	学士(総合科学)	1.07	平30		
	文学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	
	人文学科	4	130	3年次10	560	学士(文学)	1.06	平9		平成30年度入学 定員減(△10人)
	教育学部						1.02		広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
	第一類(学校教育系)	4	157	—	634	学士(教育学)	1.01	平12		平成28年度入学 定員減(△20人)
										平成30年度入学 定員減(△3人)
	第二類(科学文化教育系)	4	82	—	340	学士(教育学)	1.01	平12		平成30年度入学 定員減(△6人)
	第三類(言語文化教育系)	4	73	—	314	学士(教育学)	1.03	平12		平成30年度入学 定員減(△11人)
	第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	338	学士(教育学)	1.05	平12		平成30年度入学 定員減(△7人)
	第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	214	学士(教育学) 学士(心理学)	1.03	平12		平成30年度入学 定員減(△3人)
	法学部						1.07			
	法学科(昼間コース)	4	140	3年次10	580	学士(法学)	1.06	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度入学 定員減(△10人)
	(夜間主コース)	4	30	3年次10	160	学士(法学)	1.10	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	
	経済学部						1.07			
	経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	615	学士(経済学)	1.07	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度編入 学定員減(△5人)
	(夜間主コース)	4	45	3年次5	220	学士(経済学)	1.06	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	平成30年度入学 定員減(△15人)
										平成30年度編入 学定員減(△5人)
	理学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
	数学科	4	47	3年次 10	192	学士(理学)	1.03	昭24		
	物理学科	4	66		268	学士(理学)	1.07	平10		
	化学科	4	59		240	学士(理学)	1.06	昭24		
	生物科学科	4	34		140	学士(理学)	1.06	平5		
	地球惑星システム学科	4	24		100	学士(理学)	1.06	平4		
	医学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
	医学科	6	120	—	720	学士(医学)	1.03 1.00	昭28		
	保健学科		120	—						
	看護学専攻	4	60	—	240	学士(看護学)	1.03	平4		
	理学療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.02	平4		
	作業療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.02	平4		
	歯学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
	歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.05 1.00	昭40		
	口腔健康科学科			—	160	学士(口腔健康科学)				
	口腔保健学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.05	平21		
	口腔工学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.06	平21		
	薬学部						1.03		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
	薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1.07 1.03	平18		
	薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1.07	平18	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
	工学部						1.03			
	第一類(機械システム工学系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
	第二類(電気・電子・システム・情報系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
	第四類(建設・環境系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止

第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	4	150	3年次5	300	学士(工学)	1.04	平30		平成30年度編入学定員変更(第三類4人)
第二類(電気電子・システム情報系)	4	90	3年次3	180	学士(工学)	1.04	平30		
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	4	115	3年次4	465	学士(工学)	1.02	平13		
第四類(建設・環境系)	4	90	3年次3	180	学士(工学)	1.06	平30		
生物生産学部								広島県東広島市鏡山一丁目4番4号	令和2年度より学生募集停止 平成31年度入学定員減(△10人) 平成31年度入学定員減(△3人)
生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1.13	昭54		
情報科学部								広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
情報科学科	4	80	3年次5	160	学士(情報科学)	1.06	平30		
総合科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	令和2年度より学生募集停止 平成31年度入学定員減(△10人) 平成31年度入学定員減(△3人)
総合科学専攻(博士課程)	前期2	50	—	110	修士(学術)	0.98	平18		
	後期3	17	—	57	博士(学術)	0.81	平18		
文学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	
人文学専攻(博士課程)	前期2	64	—	128	修士(文学)	0.95	平13		令和2年度より学生募集停止
	後期3	32	—	96	博士(文学)	0.67	平13		
教育学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
学習開発専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12		
文化教育開発専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12		平成28年度より学生募集停止
教育人間科学専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学)	—	平12		平成28年度より学生募集停止
教職開発専攻(専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.00	平28		令和2年度より学生募集停止
学習開発学専攻(博士課程)	前期2	20	—	40	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.72	平28		令和2年度より学生募集停止
教科教育学専攻(博士課程)	前期2	80	—	160	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.23	平28		令和2年度より学生募集停止
日本語教育学専攻(博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.21	平28		令和2年度より学生募集停止
教育学専攻(博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.21	平12		令和2年度より学生募集停止
心理学専攻(博士課程)	前期2	19	—	38	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.12	平12		令和2年度より学生募集停止
高等教育学専攻(博士課程)	前期2	5	—	10	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	0.80	平28		令和2年度より学生募集停止
教育学習科学専攻(博士課程)	後期3	49	—	147	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	1.36	平28		令和2年度より学生募集停止
社会科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	令和2年度より学生募集停止
法政システム専攻(博士課程)	前期2	24	—	48	修士(法学) 修士(学術)	1.02	平16		
	後期3	5	—	15	博士(法学) 博士(学術)	0.53	平16		
社会経済システム専攻(博士課程)	前期2	28	—	56	修士(経済学) 修士(学術)	1.28	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	
	後期3	8	—	24	博士(経済学) 博士(学術)	0.41	平16		

マネジメント専攻 (博士課程)	前期2 後期3	28 14	— —	56 42	修士(マネジメント) 博士(マネジメント)	0.67 0.45	平12 平12	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	
理学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
数学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	22 11	— —	44 33	修士(理学) 博士(理学)	0.67 0.48	昭28 昭28		令和2年度より 学生募集停止
物理学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	30 13	— —	60 39	修士(理学) 博士(理学)	1.08 0.63	昭28 昭28		令和2年度より 学生募集停止
化学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	23 11	— —	46 33	修士(理学) 博士(理学)	1.56 0.75	昭28 昭28		令和2年度より 学生募集停止
生物科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(理学) 博士(理学)	— —	昭28 昭28		平成31年度より 学生募集停止
地球惑星システム学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	10 5	— —	20 15	修士(理学) 博士(理学)	1.05 0.53	昭28 昭28		令和2年度より 学生募集停止
数理分子生命理学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(理学) 博士(理学)	— —	平11 平11		平成31年度より 学生募集停止
先端物質科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
量子物質科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	25 12	— —	50 36	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	1.26 — — 0.30 — —	平10 平10		令和2年度より 学生募集停止
分子生命機能科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	— — — — — —	平10 平10		平成31年度より 学生募集停止
半導体集積科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	15 7	— —	30 21	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	1.33 — — 0.23 — —	平16 平16		令和2年度より 学生募集停止
医歯薬保健学研究科								広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	—	平24		平成31年度より 学生募集停止
口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(口腔健康科学) 博士(口腔健康科学)	— —	平24 平24		
薬科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(薬科学) 博士(薬科学)	— —	平24 平24		
保健学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(看護学) 修士(保健学) 博士(看護学) 博士(保健学)	— — — —	平24 平24		
医歯科学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(学術)	—	平24		
保健学研究科								広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
保健学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(看護学) 修士(保健学) 博士(看護学) 博士(保健学)	— — — —	平14 平14		平成24年度より 学生募集停止
工学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
機械システム工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	28 9	— —	56 27	修士(工学) 博士(工学)	1.23 0.70	平22 平22		令和2年度より 学生募集停止
機械物理工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	30 10	— —	60 30	修士(工学) 博士(工学)	1.61 0.96	平22 平22		
システムサイバネティクス専攻 (博士課程)	前期2 後期3	34 11	— —	68 33	修士(工学) 修士(学術) 博士(工学) 博士(学術)	1.58 — 0.78 —	平22 平22		

	情報工学専攻 (博士課程)	前期2	37	—	74	修士(工学)	1.40	平22	広島県東広島市鏡山一丁目4番4号	平成31年度より 学生募集停止
		後期3	13	—	39	修士(学術)	0.43	平22		
	化学工学専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(工学)	1.47	平22		
		後期3	8	—	24	博士(工学)	0.74	平22		
	応用化学専攻 (博士課程)	前期2	26	—	52	修士(工学)	1.32	平22		
		後期3	9	—	27	博士(工学)	0.29	平22		
	社会基盤環境工学専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.42	平22		
		後期3	7	—	21	博士(工学)	0.80	平22		
	輸送・環境システム専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.32	平22		
		後期3	7	—	21	博士(工学)	0.66	平22		
	建築学専攻 (博士課程)	前期2	21	—	42	修士(工学)	1.23	平22		
		後期3	7	—	21	博士(工学)	0.61	平22		
	生物圏科学研究科 生物資源科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(農学)	—	平18		
		後期3	—	—	—	修士(学術)	—	平18		
	生物機能開発学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	博士(農学)	—	平18		
		後期3	—	—	—	博士(学術)	—	平18		
	環境循環系制御学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(農学)	—	平11		
		後期3	—	—	—	修士(学術)	—	平11		
	医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	修士(農学)	—	平14	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	平成24年度より 学生募集停止
		4	—	—	—	修士(学術)	—	平14		
	展開医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平14		
		4	—	—	—	博士(歯学)	—	平14		
	口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	博士(医薬学)	—	平21		
		後期3	—	—	—	博士(学術)	—	平23		
	国際協力研究科 開発科学専攻 (博士課程)	前期2	43	—	86	修士(医学)	1.18	平6	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	令和2年度より 学生募集停止
		後期3	22	—	66	修士(歯学)	0.61	平6		
	教育文化専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(農学)	1.42	平7		
		後期3	14	—	42	博士(学術)	0.87	平7		
		前期2	28	—	56	修士(工学)	1.42	平7		
		後期3	14	—	42	博士(工学)	0.87	平7		
	統合生命科学研究科 統合生命科学研究科 (博士課程)	前期2	170	—	170	修士(農学)	0.90	平31		
		後期3	70	—	70	修士(学術)	0.32	平31		
	医系科学研究科 医歯薬学専攻 (博士課程)	前期2	170	—	170	博士(理学)	0.90	平31	広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号	
		後期3	70	—	70	博士(工学)	0.32	平31		

総合健康科学専攻 (博士課程)	前期2	76	—	76	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学) 修士(保健学) 修士(口腔健康科学)	0.98	平31	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	25	—	25	修士(学術) 博士(医科学) 博士(歯科学) 博士(薬科学) 博士(看護学) 博士(保健学) 博士(口腔健康科学) 博士(学術)	0.56	平31		
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	20	—	60	法務博士(専門職)	0.66	平16		
附属施設の概要 原爆放射線医科学研究所 目的：原子爆弾その他の放射線による障害の治療及び予防に関する学理並びにその応用の研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和36年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物7,971㎡ 病院 目的：医学及び歯学に係る診療の場として機能するとともに、診療を通じて地域医療の向上に寄与すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和31年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物122,552㎡ 図書館 目的：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を備え、これらの収集、整理及び提供を行うとともに、学術情報を提供すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号ほか 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物29,584㎡ 薬学部附属薬用植物園 目的：薬用植物に関する研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物298㎡ 生物生産学部附属練習船豊潮丸 目的：乗船実習、海洋調査等 所在地：広島県呉市宝町7番4号 設置年月：昭和53年10月 規模等(基地)：土地2,675㎡、建物840㎡ 教育学研究科附属幼年教育研究施設 目的：学際的・臨床的な観点からの幼年教育に関する理論的並びに実証的研究 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成41年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡ 教育学研究科附属教育実践総合センター 目的：学校教育の内容・方法に関する基礎的・理論的研究及び実践的研究の推進 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和63年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡ 教育学研究科附属特別支援教育実践センター 目的：特別支援教育についての基礎的・実践的な研究や教材開発等 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成7年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡ 教育学研究科附属心理臨床教育研究センター 目的：心理臨床に関わる教育研究									

	所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡ 社会科学研究科附属地域経済システム研究センター 目的：中国・四国地方を中心とした地域の産業経済、企業経営、行財政システム等に関する理論的・実証的な調査・研究 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成元年5月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物3,163㎡ 理学研究科附属理学融合教育研究センター 目的：理学研究科における専攻の枠を越えた融合領域の研究と教育の推進 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物34,461㎡ 統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター 目的：中国山地から瀬戸内海までのフィールドを一体化した対象として、環境と調和した持続的生物生産に関する研究等 所在地：広島県東広島市鏡山二丁目2965番地，広島県竹原市港町5丁目8番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡，竹原地区4,268㎡)，建物1,353㎡ 統合生命科学研究科附属臨海実験所 目的：広い視野に立った海洋生物学の研究者の育成のための大学院教育等 所在地：広島県尾道市向島町2445番地 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地21,197㎡，建物1,590㎡ 統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所 目的：国立公園宮島のすぐれた自然を利用した植物学の教育・研究 所在地：広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山1156-2外 設置年月：昭和49年4月 規模等：土地102,076㎡，建物578㎡ 統合生命科学研究科附属植物遺伝子保管実験施設 目的：生物科学研究材料の系統保存等 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番3号 設置年月：昭和52年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物794㎡ 医系科学研究科附属先駆的看護実践支援センター 目的：看護環境の向上および地域の人々への良質の看護の提供への貢献 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成18年6月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物84,633㎡ 医系科学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター 目的：リハビリテーション環境の向上及び良質なリハビリテーションを地域に提供するための先駆的リハビリテーション実践能力を有するリハビリテーション従事者の養成並びに先駆的リハビリテーション実践を行うためのプロジェクト研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成21年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物120㎡ 法務研究科附属リーガル・サービス・センター 目的：無料法律相談の実施等 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成17年4月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物53㎡ 原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部 目的：原子爆弾及び放射線による被災に関する情報の調査並びにそれらの資料の収集、整理、保存及び解析 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡ 放射光科学研究センター 目的：全国共同利用施設として、放射光科学に関する学術研究を行い、かつ、大学の教員その他の者でこの分野の研究に従事するものの利用に供すること及び共同利用・共同研究を活かした人材育成を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山2丁目313番地
--	--

	設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物3,881㎡ 西条共同研修センター 目的：中国・四国地区国立大学法人の学生及び職員の合宿研修のための共同利用施設として、共同生活を通じて学生相互又は学生、職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の課外活動を振興し、教養を高め、社会性を助長するとともに、地域社会における学術文化の発達に寄与すること 所在地：広島県東広島市西条町御茵宇570 設置年月：昭和47年4月 規模等：土地111,469㎡、建物1,022㎡ ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 目的：学内共同教育研究施設として、ナノデバイス・集積回路技術とバイオ技術を発展・融合し、シリコンナノデバイス上で微小生命体やバイオ分子の多検体高速診断システムを開発するとともに、情報化社会の先にある高度医療保障社会に向けて、予防医学、病気早期診断及びユビキタス診断を実現するナノバイオ・医療工学の基盤研究を展開する拠点を構築し、これらに関係する教育を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号 設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物4,153㎡ 高等教育研究開発センター 目的：学内共同教育研究施設として、国内外の大学・高等教育に関する基礎的・開発的研究の一体的推進を図るとともに、これらに係る業務を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号 設置年月：平成12年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,207㎡ 情報メディア教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、本学の情報通信基盤を支え、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び業務への支援を行い、情報メディア活用のための研究開発の推進を図ること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号 設置年月：平成13年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,507㎡ 自然科学研究支援開発センター 目的：学内共同教育研究施設として、本学の生命科学、健康科学、物質科学、環境科学など自然科学全般の学際的な教育研究の支援体制を充実させるとともに、生命科学及び物質科学関連のプロジェクト研究を推進し、幅広い基礎研究基盤の充実及び先端的な応用研究への進展に資すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号ほか 設置年月：平成15年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物13,074㎡ 産学・地域連携センター 目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うこと (1) 本学と国内外の民間等外部の機関との共同研究、受託研究及び交流を通じて、本学の教育研究の発展に寄与するとともに、地域社会及び国際社会における産業技術の振興及び発展に貢献すること (2) 本学において、ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を推進し、その研究成果を活用するベンチャー・ビジネスの創出などを支援し、経済の活性化及び新産業の創出に貢献するとともに、高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成すること (3) 本学職員等の教育研究活動における知的財産の創出に関する支援を行うとともに、知的財産に関する教育研究を行って人材を育成し、知的財産の社会への還元と活用を通じて社会に貢献すること (4) 地域社会の抱える課題の解決や夢の実現に向けて、本学の知的資源を活用した研究・地域連携活動を促進するとともに、地域社会との協働による地域連携事業を開発・促進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番2号ほか 設置年月：平成22年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,509㎡ 教育開発国際協力研究センター 目的：学内共同教育研究施設として学内外の研究者と協力して、国際教育協力を効果的・効率的に実践するための研究開発を行うことを 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番1号
--	---

	設置年月：平成9年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物306㎡ 保健管理センター 目的：学内共同教育研究施設として、学生及び職員の身体的・精神的健康の管理を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号ほか 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物1,146㎡ 平和センター 目的：学内共同教育研究施設として、平和科学に関する研究・調査及び資料の収集を行うこと 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：昭和50年7月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物386㎡ 環境安全センター 目的：学内共同教育研究施設として、実験廃液の処理を含めた環境管理並びに学生及び職員の安全管理に関する専門的業務を行うとともに、環境及び安全に関する教育研究を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番3号 設置年月：平成17年3月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,374㎡ 総合博物館 目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うことにより、研究、教育及び社会貢献の推進に資すること (1) 本学に所蔵する学術標本資料の収集、調査、保存及び管理並びにその研究、展示及び情報発信に関すること (2) 学芸員等の人材育成に関すること (3) 本学構内の埋蔵文化財の発掘調査並びに調査資料の保存、管理及び公開に関すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成18年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物443㎡ 北京研究センター 目的：海外教育研究拠点として、本学と中華人民共和国の研究者による共同研究及び学術・教育交流の推進 所在地：中華人民共和国 北京市海淀区西三環北路83号 首都師範大学国際文化大厦南楼310室 設置年月：平成14年10月 規模等：建物(使用部屋面積243㎡) 宇宙科学センター 目的：宇宙・天文の研究・教育を推進するとともに、大学共同利用機関法人自然科学研究機構等と連携し、全国の大学等との共同研究及び共同利用に供し、もって我が国の宇宙・天文の研究・教育、次世代を担う児童・生徒の科学教育及び生涯学習の推進に寄与すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号ほか 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物478㎡ 外国語教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、外国語教育に責任を持ち、学生の実践的コミュニケーション能力や外国語運用能力などの実力向上を図るとともに、外国語教育方法の研究開発と豊かな外国語教育の開発実施を通して、本学の学生及び職員に質の高い外国語学習の機会を提供し、もって国際的に活躍できる人材を育成すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,195㎡ 文書館 目的：学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物783㎡ スポーツ科学センター
--	--

	目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるスポーツに関する学士課程教育を企画立案・実施し、課外活動を支援するとともに、スポーツに関する研究及び地域社会との連携を推進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成17年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物26㎡	
	HiSIM研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、HiSIM(Hiroshima—university STARC IGFET Model)がCMC(Compact Modeling Council)により次世代世界標準トランジスタモデル(以下「標準化モデル」という。)に選定されるための標準化プロセス第3フェーズ対応業務を行うとともに、CMCによる標準化モデル選定後のセンター業務及び体制の立案を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成17年7月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物87㎡	
	現代インド研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、現代インド地域に関する研究・調査及び資料の収集を行い、現代インド地域研究の拠点形成を図ること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成22年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物60㎡	
	ダイバーシティ研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、ダイバーシティ・インクルージョン推進拠点として活動するとともに、組織及び構成員の多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的成果に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキルを備えた人材を育成すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番2号 設置年月：平成28年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)	
	両生類研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、先端的な両生類研究を行うとともに、国際的なバイオリソースセンターとして両生類バイオリソースを維持するための技術の蓄積・継承及び高品質の両生類バイオリソースの提供を行うことにより、両生類研究者の育成・輩出、国内外の研究者に対する研究支援、国内外の共同研究及び両生類バイオリソースに関する国際的なネットワークの構築を促進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成28年10月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物3,886㎡	
	トランスレーショナルリサーチセンター 目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるシーズの開発及び管理と一元的なパイプラインの確立により関連機関と連携して橋渡し研究を推進するとともに、次世代の橋渡し研究を担う人材を育成すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成30年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)	
	防災・減災研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、従来の防災学・減災学では対応できない土石流や洪水氾濫などの複合的な要因によるインフラ、経済、人的被害が相互に影響することで被害が拡大する豪雨災害中心テーマとした世界レベルの研究拠点を構築するとともに、さらに、国内外の有力研究機関とネットワークを形成し、災害科学に関する最先端の学際研究を展開すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号 設置年月：平成30年9月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)	
	森戸国際高等教育学院 目的：学内共同教育研究施設として、「変動する世界を俯瞰し、国際的にチャレンジする人財の輩出」や「地域と国際社会が協同して発展する社会連携の強化」の実現に向け、グローバル化に対応した教育を強力に推進することにより、国際人材を育成し、現代の社会的・学術的要請に応えること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号ほか 設置年月：平成30年10月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,001㎡	

	脳・こころ・感性科学研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、人間の本质である“脳・こころ・感性”を、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など分野融合的に探求し、感性科学の学問体系を確立するとともに、トップ100を目指す広島大学の持続可能な教育・研究体制を構築するとともに、その成果を教育、医療、ものづくり、ビジネスなどに社会実装し、こころ豊かなハビネス社会の実現を目指すこと 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成30年10月 規模等：土地(霞地区144,700㎡) ゲノム編集イノベーションセンター 目的：学内共同教育研究施設として、人類の様々な問題を解決することが期待されているゲノム編集の基礎分野及び応用分野の研究を進展させるとともに、産業界との連携によるゲノム編集技術開発を基盤とした新産業及びイノベーションの創出と新産業等創出に必要な人材を育成し、地域社会及び国際社会への貢献を行うこと 所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番23号 設置年月：平成31年2月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡) デジタルものづくり教育研究センター 目的：学内共同教育研究施設として、地域において喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化に対応するため、モデルベースによる材料研究や制御・生産プロセスのスマート化などに係る研究開発と人材育成を幅広く推進するとともに、地域レベルで、イノベーションを実現していく本格的な産学連携システムを構築すること 所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番32号 設置年月：平成31年2月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡) ハラスメント相談室 目的：学内共同利用施設として、職員、学生、生徒、児童及び園児が当事者となるハラスメントに関する相談を受け付け、及びハラスメントの防止を推進すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号 設置年月：平成16年9月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物136㎡ 附属学校(幼稚園2, 小学校3, 中学校4, 高等学校2) 目的：生徒、児童及び園児の心身の発達に応じて、教育とそれに伴う研究を行うとともに、本学における生徒等の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習の実施に当たること 所在地：広島県広島市南区翠1丁目1番1号ほか 設置年月：昭和26年4月ほか 規模等：土地(210,983㎡+附属幼稚園分6,919㎡)、建物54,375㎡	
--	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人広島大学 設置等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員			令和2年度	入学定員 編入学定員 収容定員			変更の事由
広島大学				広島大学				
総合科学部				総合科学部				
総合科学科	120		480	総合科学科	120		480	
国際共創学科	40		160	国際共創学科	40		160	
文学部	3年次			文学部	3年次			
人文学科	130	10	540	人文学科	130	10	540	
教育学部				教育学部				
第一類(学校教育系)	157		628	第一類(学校教育系)	157		628	
第二類(科学文化教育系)	82		328	第二類(科学文化教育系)	82		328	
第三類(言語文化教育系)	73		292	第三類(言語文化教育系)	73		292	
第四類(生涯活動教育系)	81		324	第四類(生涯活動教育系)	81		324	
第五類(人間形成基礎系)	52		208	第五類(人間形成基礎系)	52		208	
法学部	3年次			法学部	3年次			
法学科 昼間コース	140	10	580	法学科 昼間コース	140	10	580	
法学科 夜間主コース	30	10	140	法学科 夜間主コース	30	10	140	
経済学部	3年次			経済学部	3年次			
経済学科 昼間コース	150	5	610	経済学科 昼間コース	150	5	610	
経済学科 夜間主コース	45	5	190	経済学科 夜間主コース	45	5	190	
理学部				理学部				
数学科	47		188	数学科	47		188	
物理学科	66		264	物理学科	66		264	
化学科	59		236	化学科	59		236	
生物科学科	34		136	生物科学科	34		136	
地球惑星システム学科	24		96	地球惑星システム学科	24		96	
	3年次				3年次			
		10	20			10	20	
医学部				医学部				
医学科	105		630	医学科	105		630	
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
口腔健康科学科	40		160	口腔健康科学科	40		160	
薬学部				薬学部				
薬学科	38		228	薬学科	38		228	
薬科学科	22		88	薬科学科	22		88	
工学部	3年次			工学部	3年次			
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	
第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	
第四類(建設・環境系)	90	3	366	第四類(建設・環境系)	90	3	366	
生物生産学部	3年次			生物生産学部	3年次			
生物生産学科	90	10	380	生物生産学科	90	10	380	
情報科学部	3年次			情報科学部	3年次			
情報科学科	80	5	330	情報科学科	80	5	330	
	3年次				3年次			
	2,323	80	9,844		2,323	80	9,844	

平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員		令和2年度	入学定員 編入学定員 収容定員		変更の事由
広島大学大学院			広島大学大学院			
総合科学研究科			<u>総合科学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
総合科学専攻(M)	50	100	0	0		
総合科学専攻(D)	17	51	0	0		
文学研究科			<u>文学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
人文学専攻(M)	64	128	0	0		
人文学専攻(D)	32	96	0	0		
教育学研究科			<u>教育学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
教職開発専攻(P)	20	40	0	0		
学習開発学専攻(M)	20	40	0	0		
教科教育学専攻(M)	80	160	0	0		
日本語教育学専攻(M)	14	28	0	0		
教育学専攻(M)	14	28	0	0		
心理学専攻(M)	19	38	0	0		
高等教育学専攻(M)	5	10	0	0		
教育学習科学専攻(D)	49	147	0	0		
社会科学研究科			<u>社会科学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
法政システム専攻(M)	24	48	0	0		
法政システム専攻(D)	5	15	0	0		
社会経済システム専攻(M)	28	56	0	0		
社会経済システム専攻(D)	8	24	0	0		
マネジメント専攻(M)	28	56	0	0		
マネジメント専攻(D)	14	42	0	0		
理学研究科			<u>理学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
数学専攻(M)	22	44	0	0		
数学専攻(D)	11	33	0	0		
物理科学専攻(M)	30	60	0	0		
物理科学専攻(D)	13	39	0	0		
化学専攻(M)	23	46	0	0		
化学専攻(D)	11	33	0	0		
地球惑星システム学専攻(M)	10	20	0	0		
地球惑星システム学専攻(D)	5	15	0	0		
先端物質科学研究科			<u>先端物質科学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
量子物質科学専攻(M)	25	50	0	0		
量子物質科学専攻(D)	12	36	0	0		
半導体集積科学専攻(M)	15	30	0	0		
半導体集積科学専攻(D)	7	21	0	0		
工学研究科			<u>工学研究科</u>			令和2年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	28	56	0	0		
機械システム工学専攻(D)	9	27	0	0		
機械物理工学専攻(M)	30	60	0	0		
機械物理工学専攻(D)	10	30	0	0		
システムサイバネティクス専攻(M)	34	68	0	0		
システムサイバネティクス専攻(D)	11	33	0	0		
情報工学専攻(M)	37	74	0	0		
情報工学専攻(D)	13	39	0	0		
化学工学専攻(M)	24	48	0	0		
化学工学専攻(D)	8	24	0	0		
応用化学専攻(M)	26	52	0	0		
応用化学専攻(D)	9	27	0	0		
社会基盤環境工学専攻(M)	20	40	0	0		
社会基盤環境工学専攻(D)	7	21	0	0		
輸送・環境システム専攻(M)	20	40	0	0		
輸送・環境システム専攻(D)	7	21	0	0		
建築学専攻(M)	21	42	0	0		
建築学専攻(D)	7	21	0	0		

平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員		令和2年度	入学定員 編入学定員 収容定員		変更の事由
国際協力研究科			<u>国際協力研究科</u>			<u>令和2年4月学生募集停止</u>
開発科学専攻(M)	43	86		<u>0</u>	<u>0</u>	
開発科学専攻(D)	22	66		<u>0</u>	<u>0</u>	
教育文化専攻(M)	28	56		<u>0</u>	<u>0</u>	
教育文化専攻(D)	14	42		<u>0</u>	<u>0</u>	
			<u>人間社会科学研究科</u>			研究科の設置(事前伺い)
			<u>人文社会科学専攻(M)</u>	<u>257</u>	<u>514</u>	
			<u>人文社会科学専攻(D)</u>	<u>85</u>	<u>255</u>	
			<u>教育科学専攻(M)</u>	<u>163</u>	<u>326</u>	
			<u>教育科学専攻(D)</u>	<u>50</u>	<u>150</u>	
			<u>教職開発専攻(P)</u>	<u>30</u>	<u>60</u>	
			<u>実務法学専攻(P)</u>	<u>20</u>	<u>60</u>	
			<u>広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻(M)</u>	<u>2</u>	<u>4</u>	研究科の専攻の設置(国際連携専攻)(意見伺い)
			<u>先進理工系科学研究科</u>			研究科の設置(事前伺い)
			<u>先進理工系科学専攻(M)</u>	<u>449</u>	<u>898</u>	
			<u>先進理工系科学専攻(D)</u>	<u>128</u>	<u>384</u>	
			<u>広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻(M)</u>	<u>2</u>	<u>4</u>	研究科の専攻の設置(国際連携専攻)(意見伺い)
統合生命科学研究科			統合生命科学研究科			
統合生命科学専攻(M)	170	340	統合生命科学専攻(M)	170	340	
統合生命科学専攻(D)	70	210	統合生命科学専攻(D)	70	210	
医系科学研究科			医系科学研究科			
医歯薬学専攻(D)	97	388	医歯薬学専攻(D)	97	388	
総合健康科学専攻(M)	76	152	総合健康科学専攻(M)	76	152	
総合健康科学専攻(D)	25	75	総合健康科学専攻(D)	25	75	
法務研究科			<u>法務研究科</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>令和2年4月学生募集停止</u>
法務専攻	20	60				
	<u>1,561</u>	<u>3,732</u>		<u>1,624</u>	<u>3,820</u>	

教育課程等の概要（国際連携学科等）																												
（人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻（修士課程））																												
科目 区分				授業科目の名称	共同 開設科目	配当 年次	開設 大学	単位数			授業形態			教員等の配置											備考			
								必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学						連携外国大学						小計	合計	
														教授	准教授	講師	助教	助手	小計	る教授に相当員す	る准教授に相当員す	る講師に相当員す	る助教に相当員す	る助手に相当員す				
ベーシック科目	大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2①②④	広島大学		1		○				1				1								1	兼4	オムニバス	
			Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	広島大学		1		○			1				1									1	兼6	オムニバス・メディア	
			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	広島大学		1		○			2				2									2	兼4	オムニバス・メディア	
			ダイバーシティの理解	1・2②	広島大学		1		○																0	兼4	オムニバス・共同（一部）・集中	
		キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②	広島大学		1		○																	0	兼2	オムニバス
			医療情報リテラシー	1・2③	広島大学		1		○																	0	兼9	オムニバス・共同（一部）
			人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	広島大学		2		○																	0	兼1	メディア、②のみ集中
			理工系キャリアマネジメント	1・2②	広島大学		2		○																	0	兼1	集中
			ストレスマネジメント	1・2②④	広島大学		2		○																	0	兼1	②のみ集中
			MOT入門	1・2①③	広島大学		1		○																	0	兼1	
			アントレプレナーシップ概論	1・2①	広島大学		1		○																	0	兼1	
			小計（11科目）	—		0	14	0	—		3	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	兼32		
	研究科共通科目	データビジュアライゼーションA	1・2後	広島大学		1		○																	0	兼1	集中	
		データビジュアライゼーションB	1・2後	広島大学		1		○																	0	兼1	集中	
		環境原論A	1・2後	広島大学		1		○																	0	兼1	集中	
		環境原論B	1・2後	広島大学		1		○																	0	兼1	集中	
	基盤科目	小計（4科目）	—		0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2			
		リサーチメソッド	1①・③	広島大学		2		○																	0	兼1		
		社会科学のための数理・計量分析	1③	広島大学		2		○																	0	兼1		
		調査方法論基礎	1③	広島大学		2			○																0	兼1		
	グラーツ大学開設科目	持続可能な発展論基礎	1後	広島大学		2		○																	0	兼1		
		小計（4科目）	—		0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4			
		The Sustainability Challenge	1後	グラーツ大学		1.5			○										1					1	1			
		Sustainable Development - Integrating Perspectives	1後	グラーツ大学		5		○													1		1	1				
		Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams	1後	グラーツ大学		1			○												1		1	1				
		Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving	1後	グラーツ大学		1		○													1		1	1				
		Data in System Sciences	1後	グラーツ大学		1.5		○										1					1	1				
	小計（5科目）	—		0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	5	5						
S p e c i a l i z e d	S p e c i a l i z e d	S p e c i a l i z e d	開発ミクロ経済学I	1③	広島大学		2		○				1	1					2						2			
			開発ミクロ経済学II	1④	広島大学		2		○				1	1					2						2			
			開発マクロ経済学I	1③	広島大学		2		○				1						1						1	兼1		
			開発マクロ経済学II	1④	広島大学		2		○				1						1						1	兼1		
			開発計量経済学Ⅰ	1①	広島大学		2		○					1					1						1	兼1		
			開発計量経済学Ⅱ	1②	広島大学		2		○					1					1						1	兼1		
			Geographic Information System Technology	1・2③	広島大学		2		○																0	兼1		
			経済統計分析論	1②	広島大学		2		○																0	兼1		
			グローバルガバナンス論	1③	広島大学		2		○																0	兼1		

専門科目	広島大学開設科目	a l i z a t i o n 科 目	都市経済学	1②	広島大学	2		○													0	兼1		
			農村開発論	1③	広島大学	2		○			1					1					1			
			技術経営論	1①	広島大学	2		○				1				1					1			
			人的資源開発論	1④	広島大学	2		○				1				1					1			
			公共管理論	1④	広島大学	2		○			1					1					1			
			経営組織論	1③	広島大学	2		○			1					1					1			
			経営戦略論	1①	広島大学	2		○												0	兼1			
			環境政策論	1③	広島大学	2		○												0	兼1			
			都市政策論	1④	広島大学	2		○												0	兼1			
			国際協力論	1①	広島大学	2		○			1					1				1				
			労働政策論	1②	広島大学	2		○			1	1				2				2				
			国際金融論	1②	広島大学	2		○			1					1				1				
			演習A	1後	広島大学	2					6	4				10				10	兼3			
			演習B	1前	広島大学	2					6	4				10				10	兼3			
			小計 (23科目)	—		0	46	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	兼7	
			I n t e g r a t i o n 科 目		フィールドワーク	2後	広島大学	2		○		6	4				10						10	兼3 集中
					グローバルインターンシップ	2後	広島大学	2		○		6	4				10						10	兼3 集中
					Developing Designing Ability	1・2前	広島大学	2		※												0	兼2 オムニバス・共同 (一部) ※講義	
					国際協力プロジェクト演習	2後	広島大学	2			○											0	兼1	
					国際公務員実務演習A	2後	広島大学	2			○											0	兼1	
					国際公務員実務演習B	2後	広島大学	2			○											0	兼1	
					International Environmental Cooperation Studies	1・2①	広島大学	2		○		1						1				1	兼10 オムニバス	
					演習C	2後	広島大学	2			○		6	4				10				10	兼3	
	小計 (8科目)	—				0	16	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	兼11	
	グ ラ ー ツ 大 学 開 設 科 目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	Environmental and Technology Assessment	1後	グラーツ大学	2		○										1			1	1		
			Waste and Recycling	1後	グラーツ大学	2		○											1			1	1	
			Environmental Decision Making	1後	グラーツ大学	2		○											1			1	1	
			Seminar for Data in System Sciences	1後	グラーツ大学	2			○							1				1		1	1	
			Renewable Resources - Chemistry and Technology I	1後	グラーツ大学	1		○													0	兼1		
			Renewable Resources - Chemistry and Technology II	1後	グラーツ大学	1		○													0	兼1		
			Earth's Climate System and Climate Change	1後	グラーツ大学	1.5		○							1					1		1	1	
			Strategic Sustainability Management	1前	グラーツ大学	2		○										1		1	1	1		
			Sustainability Entrepreneurship	1前	グラーツ大学	2		○										1		1	1	1		
			Eco-Controlling	1前	グラーツ大学	2		○										1		1	1	1		
			Sustainable Innovation	1前	グラーツ大学	2		○											1		1	1		
			Product and Service Development	1前	グラーツ大学	2		○										1		1	1	1		
			Value Chain Management	1前	グラーツ大学	2		○										1		1	1	1		
			Research Project Sustainability Management	1前	グラーツ大学	3				○									1		1	1		
			Sustainability and Environmental Management	1前	グラーツ大学	2			○								1			1	1	1		
			小計 (15科目)	—		0	28.5	0	—		0	0	0	0	0	0	2	1	4	2	0	9	9 兼2	
	I n t e g r a t i o n 科 目		Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development	2後	グラーツ大学	5			○										1	1	1			
			Social competences for managing sustainable development	2後	グラーツ大学	1.5			○										1		1	1		
			Master seminar	2後	グラーツ大学	1			○							3	1			4	4	共同		
			小計 (3科目)	—		0	7.5	0	—		0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	6	6	
に修 科関 士目 す論 る文		修士論文	1～2	広島大学	15			○		6	4				10						10 兼3			
		Master Thesis	1～2	グラーツ大学	15			○								3	1	1	2		7 7			
		小計 (2科目)	—		0	30	0	—		6	4	0	0	0	10	3	1	1	2	0	7 17 兼3			
合計 (75科目)			—		0	164	0	—		6	4	0	0	0	10	4	1	5	2	0	12 22 兼48			

学位又は称号	修士（学術）	学位又は学科の分野	経済学関係		
卒業要件	履修方法	開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等	
(国際連携専攻／連携外国大学の修了要件) 修了に必要な単位数を60単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験に合格すること。 ○修了要件単位数：60単位 ・そのうち、広島大学から30単位以上、グラーツ大学から30単位以上修得すること ○広島大学をホーム大学とする学生の修了要件単位数は以下のとおり 【広島大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 －大学院共通科目（持続可能な発展科目）：1単位以上 －大学院共通科目（キャリア開発・データリテラシー科目）：1単位以上 －研究科共通科目：2単位以上 －基盤科目：6単位以上（「持続可能な発展論基礎」は必修） ・専門科目：4単位以上（「演習A」は必修） ・広島大学が開設する科目：1単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －修士論文：15単位 【グラーツ大学開設科目】 ・専門科目：20.5単位以上 －Specialization 科目：13単位以上 （「Strategic Sustainability Management」，「Sustainability Entrepreneurship」，「Eco-Controlling」，「Sustainable Innovation」，「Research Project Sustainability Management」，「Sustainability and Environmental Management」は必修。） －Integration科目：7.5単位以上 （「Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development」，「Social competences for managing sustainable development」，「Master seminar」は必修） ・グラーツ大学が開設する科目：9.5単位以上 ○グラーツ大学をホーム大学とする学生の要修得単位数は以下のとおり 【グラーツ大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 （「The Sustainability Challenge」，「Sustainable Development - Integrating Perspectives」，「Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams」，「Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving」，「Data in System Sciences」は必修） ・専門科目：2単位以上 －Specialization科目：2単位以上 ・グラーツ大学の開設科目：3単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －Master Thesis：15単位 【広島大学開設科目】 ・専門科目：22単位以上 －Specialization科目：15単位以上（「演習B」は必修） －Integration科目：7単位以上（「演習C」は必修） ・広島大学が開設する科目：8単位以上		広島大学	103 (0)	1 学年の学期区分	広島大学：2学期（4ターム） グラーツ大学：2学期
		グラーツ大学	61 (0)	1 学期の授業期間	15週
		共同開設科目	0 (0)	1 時限の授業時間	90分

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）																											
（人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻（修士課程））（広島大学）																											
科目 区分				授業科目の名称	共同 開設 科目	配当 年次	開設 大学	単位数			授業形態			教員等の配置													備考
								必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	申請大学						連携外国大学							
														教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	小 計	る 教授 に 相当 員	る 准 教授 に 相当 員	る 講 師 に 相当 員	る 助教 に 相当 員	る 助手 に 相当 員	小 計	合 計	
ベーシック科目	大学院 共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2①②④	広島大学		1		○				1												1	兼4 オムニバス	
			Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	広島大学		1				○			1												1	兼6 オムニバス・メディア
			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	広島大学		1				○			2												2	兼4 オムニバス・メディア
			ダイバーシティの理解	1・2②	広島大学		1				○															0	兼4 オムニバス・共同（一部）・集中
		キャリア開発・キャリア科目	データリテラシー	1・2①②	広島大学		1			○																0	兼2 オムニバス
			医療情報リテラシー	1・2③	広島大学		1				○															0	兼9 オムニバス・共同（一部）
			人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	広島大学		2				○															0	兼1 メディア、②のみ集中
			理工系キャリアマネジメント	1・2②	広島大学		2				○															0	兼1 集中
			ストレスマネジメント	1・2②④	広島大学		2				○															0	兼1 ②のみ集中
			MOT入門	1・2①③	広島大学		1				○															0	兼1
			アントレプレナーシップ概論	1・2①	広島大学		1				○															0	兼1
		小計（11科目）				—		0	14	0	—			3	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	兼32
	研究科 共通科目		データビジュアライゼーションA	1・2後	広島大学		1			○																0	兼1 集中
			データビジュアライゼーションB	1・2後	広島大学		1				○															0	兼1 集中
			環境原論A	1・2後	広島大学		1				○															0	兼1 集中
			環境原論B	1・2後	広島大学		1				○															0	兼1 集中
		小計（4科目）				—		0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
	基盤 科目		リサーチメソッド	1①・③	広島大学		2			○																0	兼1
			社会科学のための数理・計量分析	1③	広島大学		2				○															0	兼1
			調査方法論基礎	1③	広島大学		2					○														0	兼1
			持続可能な発展論基礎	1後	広島大学		2				○															0	兼1
			小計（4科目）				—		0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

専門科目	広島大学開設科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	開発ミクロ経済学Ⅰ	1③	広島大学	2		○			1	1				2						2		
			開発ミクロ経済学Ⅱ	1④	広島大学	2		○			1	1				2				2				
			開発マクロ経済学Ⅰ	1③	広島大学	2		○			1					1				1	兼1			
			開発マクロ経済学Ⅱ	1④	広島大学	2		○			1					1				1	兼1			
			開発計量経済学Ⅰ	1①	広島大学	2		○				1				1				1	兼1			
			開発計量経済学Ⅱ	1②	広島大学	2		○				1				1				1	兼1			
			Geographic Information System Technology	1・2③	広島大学	2		○												0	兼1			
			経済統計分析論	1②	広島大学	2		○												0	兼1			
			グローバルガバナンス論	1③	広島大学	2		○												0	兼1			
			都市経済学	1②	広島大学	2		○												0	兼1			
			農村開発論	1③	広島大学	2		○			1					1				1				
			技術経営論	1①	広島大学	2		○				1	1			1				1				
			人的資源開発論	1④	広島大学	2		○				1				1				1				
			公共管理論	1④	広島大学	2		○				1				1				1				
			経営組織論	1③	広島大学	2		○			1					1				1				
			経営戦略論	1①	広島大学	2		○												0	兼1			
			環境政策論	1③	広島大学	2		○												0	兼1			
			都市政策論	1④	広島大学	2		○												0	兼1			
			国際協力論	1①	広島大学	2		○			1					1				1				
			労働政策論	1②	広島大学	2		○			1	1				2				2				
			国際金融論	1②	広島大学	2		○			1					1				1				
			演習A	1後	広島大学	2			○		6	4				10				10	兼3			
			演習B	1前	広島大学	2			○		6	4				10				10	兼3			
			小計 (23科目)			—			0	46	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0
	国際 統合 研究 国際 科目	フィールドワーク	2後	広島大学	2			○			6	4					10						10	兼3 集中
		グローバルインターンシップ	2後	広島大学	2			○			6	4					10						10	兼3 集中
		Developing Designing Ability	1・2前	広島大学	2		※	○														0	兼2 オムニバス・共同 (一部) ※講義	
		国際協力プロジェクト演習	2後	広島大学	2			○														0	兼1	
		国際公務員実務演習A	2後	広島大学	2			○														0	兼1	
		国際公務員実務演習B	2後	広島大学	2			○														0	兼1	
		International Environmental Cooperation Studies	1・2①	広島大学	2			○			1						1					1	兼10 オムニバス	
		演習C	2後	広島大学	2			○			6	4					10					10	兼3	
		小計 (8科目)			—			0	16	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
科 す に 論 修 目 る 関 文 士	修士論文	1～2	広島大学			15			○		6	4				10						10	兼3	
	小計 (1科目)			—			0	15	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	兼3
合計 (51科目)			—			0	103	0	—		6	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10	兼46

学位又は称号	修士（学術）	学位又は学科の分野	経済学関係		
卒業要件及び履修方法	開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等		
(国際連携専攻／連携外国大学の修了要件) 修了に必要な単位数を60単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験に合格すること。 ○修了要件単位数：60単位 ・そのうち、広島大学から30単位以上、グラーツ大学から30単位以上修得すること ○広島大学をホーム大学とする学生の修了要件単位数は以下のとおり 【広島大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 －大学院共通科目（持続可能な発展科目）：1単位以上 －大学院共通科目（キャリア開発・データリテラシー科目）：1単位以上 －研究科共通科目：2単位以上 －基盤科目：6単位以上（「持続可能な発展論基礎」は必修） ・専門科目：4単位以上（「演習A」は必修） ・広島大学が開設する科目：1単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －修士論文：15単位 【グラーツ大学開設科目】 ・専門科目：20.5単位以上 －Specialization 科目：13単位以上 （「Strategic Sustainability Management」, 「Sustainability Entrepreneurship」, 「Eco-Controlling」, 「Sustainable Innovation」, 「Research Project Sustainability Management」, 「Sustainability and Environmental Management」は必修。） －Integration科目：7.5単位以上 （「Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development」, 「Social competences for managing sustainable development」, 「Master seminar」は必修） ・グラーツ大学が開設する科目：9.5単位以上 ○グラーツ大学をホーム大学とする学生の要修得単位数は以下のとおり 【グラーツ大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 （「The Sustainability Challenge」, 「Sustainable Development - Integrating Perspectives」, 「Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams」, 「Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving」, 「Data in System Sciences」は必修） ・専門科目：2単位以上 －Specialization科目：2単位以上 ・グラーツ大学の開設科目：3単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －Master Thesis: 15単位 【広島大学開設科目】 ・専門科目：22単位以上 －Specialization科目：15単位以上（「演習B」は必修） －Integration科目：7単位以上（「演習C」は必修） ・広島大学が開設する科目：8単位以上	広島大学	103 (0)	1 学年の学期区分	2学期（4ターム）	
			1 学期の授業期間	15週	
	共同開設科目	0 (0)	1 時限の授業時間	90分	

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校 の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）																											
（人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻（修士課程））（グラーツ大学）																											
科目 区分	授業科目の名称	共同 開設 科目	配当 年次	開設 大学	単位数			授業形態			教員等の配置												備考				
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	申請大学						連携外国大学										
											教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	小 計	る 教授 に 相当 員	す 准 教授 に 相当 員	る 講師 に 相当 員	る 助教 に 相当 員	る 助手 に 相当 員	小 計		合 計			
ベーシック科目	グラーツ大学開設科目		1後	グラーツ大学		1.5			○									1				1	1				
			1後	グラーツ大学		5			○												1	1	1				
			1後	グラーツ大学		1				○												1	1	1			
			1後	グラーツ大学		1				○									1				1	1	1		
			1後	グラーツ大学		1.5				○								1					1	1	1		
			小計（5科目）		—		0	10	0		—		0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	5	5		
専門科目	グラーツ大学開設科目	Specialization科目	1後	グラーツ大学		2			○									1		1			1	1			
			1後	グラーツ大学		2			○											1				1	1		
			1後	グラーツ大学		2			○												1				1	1	
			1後	グラーツ大学		2				○								1						1	1		
			1後	グラーツ大学		1				○															0	兼1	
			1後	グラーツ大学		1				○															0	兼1	
			1後	グラーツ大学		1.5				○							1							1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		2				○										1				1	1		
			1前	グラーツ大学		3						○									1				1	1	
			1前	グラーツ大学		2					○								1					1	1		
			小計（15科目）		—		0	28.5	0		—		0	0	0	0	0	0	2	1	4	2	0	9	9	兼2	
	Integrative科目		2後	グラーツ大学		5				○										1			1	1			
			2後	グラーツ大学		1.5				○										1			1	1			
			2後	グラーツ大学		1				○							3	1					4	4	共同		
			小計（3科目）		—		0	7.5	0		—		0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	6	6		
論文修 めるに 士 科 関 連		1～2	グラーツ大学		15				○								3	1	1	2		7	7				
		小計（1科目）		—		0	15	0		—		0	0	0	0	0	0	3	1	1	2	0	7	7			
合計（24科目）						—		0	61	0		—		0	0	0	0	0	0	4	1	5	2	0	12	12	兼2

学位又は称号	修士（学術）	学位又は学科の分野	経済学関係		
卒業要件	履修方法	開設大学等	開設単位数（必修）	授業期間等	
(国際連携専攻／連携外国大学の修了要件) 修了に必要な単位数を60単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験に合格すること。 ○修了要件単位数：60単位 ・そのうち、広島大学から30単位以上、グラーツ大学から30単位以上修得すること ○広島大学をホーム大学とする学生の修了要件単位数は以下のとおり 【広島大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 －大学院共通科目（持続可能な発展科目）：1単位以上 －大学院共通科目（キャリア開発・データリテラシー科目）：1単位以上 －研究科共通科目：2単位以上 －基盤科目：6単位以上（「持続可能な発展論基礎」は必修） ・専門科目：4単位以上（「演習A」は必修） ・広島大学が開設する科目：1単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －修士論文：15単位 【グラーツ大学開設科目】 ・専門科目：20.5単位以上 －Specialization 科目：13単位以上 （「Strategic Sustainability Management」，「Sustainability Entrepreneurship」，「Eco-Controlling」，「Sustainable Innovation」，「Research Project Sustainability Management」，「Sustainability and Environmental Management」は必修。） －Integration科目：7.5単位以上 （「Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development」，「Social competences for managing sustainable development」，「Master seminar」は必修） ・グラーツ大学が開設する科目：9.5単位以上 ○グラーツ大学をホーム大学とする学生の要修得単位数は以下のとおり 【グラーツ大学開設科目】 ・ベーシック科目：10単位以上 （「The Sustainability Challenge」，「Sustainable Development - Integrating Perspectives」，「Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams」，「Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving」，「Data in System Sciences」は必修） ・専門科目：2単位以上 －Specialization科目：2単位以上 ・グラーツ大学の開設科目：3単位以上 ・修士論文に関する科目：15単位以上 －Master Thesis：15単位 【広島大学開設科目】 ・専門科目：22単位以上 －Specialization科目：15単位以上（「演習B」は必修） －Integration科目：7単位以上（「演習C」は必修） ・広島大学が開設する科目：8単位以上				1 学年の学期区分	2学期
		グラーツ大学	61 (0)	1 学期の授業期間	15週
		共同開設科目	0 (0)	1 時限の授業時間	90分

(注)

- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の実定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要

（人間社会科学研究所 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻（修士課程））

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大学院 共通 科目 ／ 持 続 可 能 な 発 展 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	（概要）被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題として世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。 （オムニバス方式／全8回） （15 川野 徳幸／2回） 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要 （40 小宮山 道夫／2回） 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割 （19 河合 幸一郎／1回） 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題 （20 中坪 孝之／1回） 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策 （10 山根 達郎／2回） 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方	オムニバス方式
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	（英文） This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Masaru Ichihashi “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective” （和訳）本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世	オムニバス方式

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大学院 共通 科目 ／ 持 続 可 能 な 発 展 科 目	広 島 大 学	界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 (オムニバス方式／全8回) (12 金子 慎治／1回) 本講義のガイダンス、概要説明 (65 三角 幸子／1回) JICAの活動、役割 (13 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (11 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (21 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (16 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (2 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島復興	
	広 島 大 学	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan”	オムニバス 方式

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大 学 院 共 通 科 目 ／ 持 続 可 能 な 発 展 科 目	広 島 大 学	lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion (和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 (オムニバス方式／全 8 回) (25 馬場 卓也／2 回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ (5 MAHARJAN, KESHAV LALL／1 回) 農業開発における日本の経験 (3 関 恒樹／1 回) 日本の現代化における社会文化的側面 (22 清水 欽也／2 回) 日本における教育開発 (23 田中 純子／1 回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (24 森山 美知子／1 回) 日本のヘルスケアシステム	
		広 島 大 学	ダイバーシティの理解 SDGs の達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。 (オムニバス方式／全 8 回) (17 坂田 桐子・44 櫻井 里穂／2 回)(共同) 1. ダイバーシティに関する理論：特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。 (57 北梶 陽子／5 回) 2. ゲーム演習：多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。	オムニバス 方式・共同 (一部)

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目			(18 大池 真知子・57 北梶 陽子／1回) (共同) 3. ディスカッション：理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。	
	大学院 共通科目／ キャリア開発・ データリテラシー科目	広島大学	データリテラシー (概要) ICT の普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。 (オムニバス方式／全8回) (45 宮尾 淳一／4回) ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AI への応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。 (31 柳原 宏和／4回) 本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフト R を用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	オムニバス方式
	広島大学	医療情報リテラシー	(概要) ゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。 (オムニバス方式／全8回) (59 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究 (32 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性 (46 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法 (34 栗井 和夫・33 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用 (60 田中 剛／1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	大学院共通科目／キャリア開発・デュータリテラシー科目	広島大学	(23 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用 (47 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用 (37 久保 達彦／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習	
		広島大学	人文社会系キャリアマネジメント この授業の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
		広島大学	理工系キャリアマネジメント コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3) 高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。 授業の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を修得する。	
		広島大学	ストレスマネジメント 現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する。講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	
		広島大学	MOT 入門 本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベーション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。	
		広島大学	アントレプレナーシップ 概論 イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目			ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。	
	研究科共通科目	広島大学 データビジュアライゼーション A	本講義では、社会データを可視化する方法について、概念からコンピュータによる実装方法までを論ずる。当講義ではまず、データの持つ特徴を直観的に理解するために必要な基本的な統計学の概念、および作図法を学ぶ。並行して無料の統計ソフトである R を用いた実装方法までを実習形式で学ぶ。当該手法はデータの大規模化が進む中で、平均や分散などの伝統的な統計量では測りきれないデータの特徴を可視化する極めて有用な手法であると広く認識されている。 本講義の到達目標は、(1) データを描写する作図法を基本的な統計概念と共に理解する、(2) R を用いて実際に作図が可能になる、である。	
		広島大学 データビジュアライゼーション B	本講義では、社会データを可視化する方法について、概念からコンピュータによる実装方法までを論ずる。当講義では、データを用いて予測を行う方法、因果推論を行う方法について学んだあとに、その可視化の方法について論ずる。さらに数値データだけではなく、文字データの扱い方についても併せて学ぶ。また並行して無料の統計ソフトである R を用いた実装方法までを実習形式で学ぶ。 本講義の到達目標は、(1) 予測と因果推論の基礎的な概念を理解する、(2) R を用いて結果を可視化する方法を理解する、(3) 文字データの可視化の方法を理解する、である。	
		広島大学 環境原論 A	現在の環境問題の基底を理解することにより、環境問題を産み出している要素を把握し、要素の連関性を分析にすることを通して、顕在化している深刻な問題から顕在化しているわけではないが将来的に大きな問題となる可能性がある問題まで広がりを見せる現代の環境問題に対処できるように、知的基盤と俯瞰的活用力の習得を目指す。	
		広島大学 環境原論 B	現在から将来にかけての主要環境問題は持続可能な社会のためのものである。これは現在顕在化しているわけではないが将来的に大きな問題となる可能性のある問題である。この問題の解決のために求められる目標の設定と達成のための個人・政策・経済・社会・技術に関わる手法を全球に適用可能なものとする方法論の基礎の習得を目指す。	
	基盤科目	広島大学 リサーチメソッド	リサーチメソッドでは、社会科学論文の作成をゴールとする研究活動の展開方法を実践的に習得する。論文作成を見据え、明確な問題設定をするための先行研究の収集、科学論文の読み方とその包括的なレビューの方法、リサーチ・クエスチョンと仮説の構築、仮説検証を行うためのデータ収集の技法やその分析方法の選定方法、分析結果の提示やそのプレゼンテーション技法に至るまでのプロセスを、実践的に習得する。	
		広島大学 社会科学のための数理・計量分析	社会科学のために必要な基礎的な数学・方法を重点的に学びなおす。具体的には、(1)統計的分析方法の基礎、(2)検定の考え方、(3)数理モデルに必要な数学基礎、(4)経済社会への応用例を中心にした講義内容。また、データ分析に必要なプログラミング言語として R の演習を行う。	
		広島大学 調査方法論基礎	調査方法論基礎では、開発途上国に適用可能な最新の社会調査技法の獲得を目指す。科学論文の作成を見据えた明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定やその設計、実査、データ分析、結果の提示に至るまでのプロセスを客観的・科学的に行うための基本的技法を習得する。また調査倫理や調査データ管理の方法についても習得する。	
		広島大学 持続可能な発展論基礎	持続可能な発展論基礎では、Jeffrey D. Sachs による著書、The Age of Sustainable Development を教科書とし、持続可能な発展論に関する主要な議論とその背景となる考え方を包括的に学ぶことを通し、多様な観点から持続可能な発展を論じる基盤を習得する。	

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目		グ ラ ー ツ 大 学	The Sustainability Challenge	本科目では、サステナビリティの主要な課題について理解を深めるため、サステナビリティの問題に関する一連の科学論文を取り扱う。また論文の内容のみならず研究方法や科学論文の書き方にも重点を置く。これを踏まえ、各自が科学論文の草稿を作成し、それについて議論する。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Sustainable Development Integrating Perspectives	本科目では、持続可能な開発に対する多様な考え方を理解するために、さまざまな価値志向やそれに伴う信念、すなわち世界観を捕らえようとしており、履修者には自らその探究に参加してもらう。本科目で分かることだが、サステナビリティの問題は、一面的世界観が過度に強調され、結果として衰退するところにあると理解できる。客観的知識と主観的知識が入り混じるこうした問題を構造的に理解するため、まず「世界観」というコンセプトを出発点とし、人口増加、貧困と食料安全保障、エネルギーと資源利用、生態系の安定性、都市化といった世界的課題に取り組む。これらの論点を取り上げるたびに、さまざまな科学が問題に持ち込むそれぞれの世界観や立場に目を向けていく。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Social Competences for Working in Inter- and Transdisciplinary Teams	学際的問題はきわめて複雑で不確実性が高く、価値観や社会的利害関係により特徴付けられる。そのため、効果的なコミュニケーション、チームワーク、ネットワーキング、グループやプロセスの調整のような能力がとりわけ重要となる。プロジェクト・メンバーには学際的な専門知識のみならず、さまざまな状況下の紛争解決スキル、また自身のスキルとその限界についての認識も求められる。社会的能力、実際の学際的問題、そして学生のニーズの現状を踏まえ、社会的能力を選び、討議と訓練を行う。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Methods for Inter- and Transdisciplinary Problem-solving	本科目では学際的・分野横断的問題の解決に役立つ重要な手法を選び、紹介する。さらに、それ以外の学際的・分野横断的手法やツールも紹介し、ケーススタディでその実際の応用について話し合う。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Data in System Sciences	本科目はデータソース、データマイニング、データ処理、データ分析、機械学習、ニューラルネットワーク、AI などデータの応用技術の基本を網羅する。	
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広 島 大 学	開発ミクロ経済学Ⅰ	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学Ⅰでは、現代の開発ミクロ経済学における消費者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
		広 島 大 学	開発ミクロ経済学Ⅱ	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学Ⅱでは、現代の開発ミクロ経済学における生産者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
		広 島 大 学	開発マクロ経済学Ⅰ	開発マクロ経済学Ⅰでは、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学Ⅰでは、現代の開発マクロ経済学における基礎理論とその分析ツールに重点を置く。	
		広 島 大 学	開発マクロ経済学Ⅱ	開発マクロ経済学Ⅱでは、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学Ⅱでは、開発マクロ経済政策を議論する上で重要な経済成長論とその分析ツールに重点を置く。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広島大学	開発計量経済学Ⅰ	開発計量経済学Ⅰでは、開発政策の効果測定に必要な計量経済学の理論を理解し、それを研究に応用できるスキルを養うことを目的とする。最小二乗法(OLS)の概念、OLS が因果関係を示すための条件(不偏性の条件)、OLS の漸近論を理解した後、実践的な応用方法を習得する：交差項の使用法、ダミー変数の使用法、部分効果の理解、差分の差分法、固定効果法、操作変数法、同時方程式推定法、不連続回帰分析。	
	広島大学	開発計量経済学Ⅱ	開発計量経済学Ⅱでは、引き続き開発政策の効果推定に必要な計量経済学のツールの習得を目指す。開発経済における計量経済においては、交通手段の選択など、人々の「選択」を分析したり、被説明変数の一部しか研究者が観察できない状況で推定をする必要があったり、サンプルセレクションの問題に直面する。よって、本講義では離散モデルの習得を目指す：プロビット法・ロジット法、順序プロビット法・ロジット法、多項ロジット法、トビット回帰法、打ち切り回帰法、ヘックマン・サンプルセレクション修正法、ハザード関数モデルなどの期間分析法。	
	広島大学	Geographic Information System Technology	都市・交通計画、環境、エネルギー、農業、防災など様々な分野で必要となる空間の情報を処理・解析するための方法について、地理情報システム(GIS)を活用した地理空間分析の諸手法について講義するとともに、各分野での活用事例を紹介することを通して、GISを用いて分析・解決する能力を養成する。本講義では、(1)空間的データの表現を理解すること、(2)GISに関する基礎知識を習得すること、(3)GISを用いた基本的な空間情報処理を行うことができること、(4)GISを用いた空間データのモデリングに関する応用技術を習得すること、を目指す。	
	広島大学	経済統計分析論	経済統計の特徴とその活用の仕方、分析方法などの基礎を習得する。GDP 統計、SNA、財務データ、国際データ、産業連関表などを中心に解説する予定。 具体的な内容は、概ね以下の通り。 (1) ガイダンス：受講に当たっての注意事項と講義の計画 (2) 経済データの特徴(様々な経済データ) (3) 産業連関表の枠組みについて (4) 投入係数表と線形代数の基礎 (5) 逆行列計算と経済波及効果について (6) 輸入内生モデルとIOの応用 (7) 確率・統計の基礎概念(平均と分散) (8) 因果関係と相関関係の区別について (9) 相関係数とその応用 (10) 最小自乗法、単回帰分析1 (11) 最小自乗法、単回帰分析2 (12) 検定統計量の意味について (13) 消費関数、投資関数の実際例 (14) 構造変化分析、ダミー変数 (15) 時系列モデルの基礎	
	広島大学	グローバルガバナンス論	グローバルガバナンスは、国際的なアジェンダにとって非常に重要であり、グローバルな問題や懸念に対処するために協力を維持するための努力の基盤となる。世界は今後ますますセキュリティの脅威、経済的な崩壊、開発の懸念、そして悪化する環境条件に対処しなければなりません。国は、国連、WTO、環境変化を管理する条約などの国際機関の設立を通じて、これらの課題に対処するための努力を調整しようとしています。本講義では、国家、非国家の両方の構造と、安全保障、経済、人権、開発及び環境の分野における人類の共通の問題を解決するための取り組みについて説明する。南北の対立、国家間の協力のモデルと機構、ガバナンス構築に貢献する非国家主体の役割と国家との関係などを扱う。	
	広島大学	都市経済学	都市経済学では、なぜ都市が存在するのか、なぜ都市は成長するのか、地方自治体はどのようにしてそのような成長を促進できるのか、といった視点から、都市構造や開発パターンについて議論する。たとえば首都圏の特定の地域が他の地域よりも急速に成長するのはなぜか、企業や世帯は、どのようにして特定の大都市圏内において立地場所を決めるのか、何が土地の価格を決定し、そしてこれらの価格はどのように空間を越えて変わるか、などがそこでは重要な問題となる。さらに本講義では、都市問題の空間的側面、すなわち、貧困、住居、そして郊外化やスプロールリングなどに焦点を当て、最適な都市開発に必要な政策を概説する。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広島大学 農村開発論	現在、世界人口の大部分は農村に居住している。そこではいわゆる非効率的な資源開発や、それに起因する環境破壊や資源の枯渇だけでなく、社会インフラの不足、破壊などの問題が存在する。本講義ではまず、農村部におけるこれら諸問題を概説したのち、これらを理論的に分析するための枠組みを提示し、そのうえで都市部との関係に留意しつつも農村住民の視点に立ち、環境と調和し農村の限りある資源を持続的に活用する最適な農村開発政策とはなにか、について明らかにする。	
		広島大学 技術経営論	技術経営論では、主に企業レベルの技術・イノベーションとオペレーションを対象に、同分野の基礎的な理論に加えて、関連するリーンオペレーション、全社的な品質管理などの実践的な管理手法について講義する。経営学の主要な分野である経営戦略、組織、人的資源管理との関連も検討する。また、先進国、新興工業国、後発国それぞれの企業事例について紹介したうえで、習得した理論や管理手法を用いた学生による分析・評価を実施する。	
		広島大学 人的資源開発論	人的資源開発論では、企業をはじめ各種組織で働く従業員などの知識・スキル開発を中心的な論点とする。まず、成人学習や研修の管理・評価に関する理論的基礎と実践的手法を習得させる。知識・スキルの具体的な事例としては、とくに創造性、リーダーシップと異文化適応に重点を置き、学生による研修事例の分析・評価も行う。関連分野と位置付けられるキャリア開発や知識経営、さらに国際人的資源開発論として多国籍企業、各国企業や社会・国レベルの人的資源開発の国際比較も取り上げる。	
		広島大学 公共管理論	公共管理論では、公的機関による組織活動と、こうした組織活動を効率的・効果的に実施するための適切な管理のあり方について、企業組織との比較の観点に配慮した形で議論を進める。具体的には、 new public management を含む「公共管理」の基本的な枠組みについて整理したうえで、マネジメント・サイクルの考え方や、各種の経営資源とそれらの効率的・効果的な利用について検討する。また、組織の事例として先進国と途上国の公的機関及び国際機関を取り上げ、各事例の組織管理、人事管理について考察する。	
		広島大学 経営組織論	経営組織論では、組織運営を行う際に必要となる諸問題について、組織行動論に代表されるミクロ組織論の理論的枠組みに基づきながら、心理学や社会学などの学際的知見を踏まえた形で講義を進める。具体的には、個人・集団レベルの行動や組織構造・デザインといった基本的な内容を検討したうえで、個人のモチベーションや職務満足度、集団におけるリーダーシップ、コミュニケーション、さらに組織文化、人的資源管理、組織変革・開発について考察する。	
		広島大学 経営戦略論	経営戦略論では、企業の中長期的な目標を実現するために整合的な企業行動をとるための指針としての経営戦略を学ぶ。具体的には、戦略の概念と理論、戦略形成の手法とプロセス、戦略が機能する論理について学ぶ。特に、 SWOT 分析、垂直統合と競争優位、コストリーダーシップと線品差別化、戦略的柔軟性、標準・ネットワーク・プラットフォーム、戦略的提携、多角化戦略・資源配分などについて習得する。	
		広島大学 環境政策論	環境政策論では、環境問題を市場と環境との相互作用として捉える環境経済学を基盤とし、国内および国際的なレベルでの環境規制政策と天然資源管理政策の理論と実践を扱う。抽象的な経済モデルによる理論的説明とアジア、アフリカを中心に実際の環境政策、資源管理政策とを比較することによって、理論と実践のそれぞれの役割と意味について考察する。	
		広島大学 都市政策論	都市政策論では、日本の国、地方レベルで都市政策の問題と計画問題を参考に、他の国の都市政策との比較を行う。トピックは、都市行政、都市計画、各種地域レベルでの公共政策、財政、国との関係、コミュニティ開発、経済と社会的不平等、運営と管理、そして環境の持続可能性など、さまざまな観点を扱う。比較では、欧米などの先進国、中国やASEANなどの経済的に急速に発展している途上国、アフリカでの低所得国など、国の発展と地域の違いなどを踏まえたいくつかの大きなグループに分ける。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広島大学 国際協力論	国際協力論では、国際協力とは何か、その理念と実践を学ぶ。具体的には南北問題、地球公共財、国連・国際機関、政府開発援助(ODA)、人道支援、NGOs、MDGs/SDGsなどの基礎的な知識を習得し、今後の国際協力のあり方を議論するための能力を養う。また、国際協力をテーマとした多様な分野の研究論文をレビューしながら、習得した知識や国際協力の実情を踏まえ、今後の国際協力のあり方について議論する。	
		広島大学 労働政策論	労働政策論では、労働経済学の理論を講義するとともに、その実証例をバランスよく配合し、様々な社会問題を理論的に説明する力を養うことを目的とする。我々が日常耳にする社会問題の多くの部分は、労働に関係する。具体的には、配偶者控除制度と103万円の壁、最低賃金と雇用の関係、移民の流入と賃金といった議題である。これらを理論的に説明する力を養い、さらに最新の実証研究の学術的な知見を理解することを目的とする。理論は、余暇選択理論、労働供給、労働需要、労働市場均衡、人的資本理論の順で進めていく。	
		広島大学 国際金融論	国際金融論では、開発途上国の国際金融政策に関する課題に取り組むために必要な経済分析手法の獲得を目指す。外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学んだ上で、解放経済の下での財政・金融政策の効果を理論的及び実証的な視点から習得する。また、国際通貨体制や金融危機、各国のマクロ経済政策協調など開発途上国にとって重要な事柄について、国際金融の歴史的推移も含めて理解する。	
		広島大学 演習A	国際経済開発に関するジャーナルとそれに所収されている論文の質の違いを理解する力を養う。高い水準の論文を探して読む力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して研究成果のまとめ方・伝え方の基礎を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する基礎力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	Specialization科目	広島大学		(9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
		広島大学	演習B	国際経済開発に関する高い水準の論文を探して、批判的に読む力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して研究成果のまとめ方・伝え方を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	Specialization科目	広島大学		(10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
	Integration科目	広島大学	フィールドワーク	フィールドワークとは、国内外のフィールドで実施される調査研究活動である。本科目は、指導教員の指導のもとに学生が作成した、フィールドワーク実施計画書(調査目的、期間、地域、調査内容、連絡先、指導教員のサインなど)に基づき行われる。	
		広島大学	グローバルインターンシップ	国内外の民間企業、国際機関、政府機関、非営利団体などへのインターンシップを通じて、企業や組織の運営を学び、関連する社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る実習科目である。	
		広島大学	Developing Designing Ability	(概要) インターンシップ研修前の過程で、相互の多次元知識を批判的に関連づけ、自らの経験を他者に説明・議論するために、ディベートの実践力を習得する。期待される効果は、 (1) 専門職業人になるためのコンピテンシーを理解し、ディベート技法を習得すること。 (2) ディベート演習を通じて、課題解決能力すなわち課題の本質を理解し、複数の解決策を模索し、関連する知識や能力を動員して解決すること、を身につけること。 (3) 実践的ディベートを通じて、複眼的な視野からディベートの主題を理解し、分析的にかつ論理的に議論を展開できる能力を身につけること。 (オムニバス方式／全15回) (14 藤原 章正／2回) 背景、目的、ディベートの概要について講義を行う。 (49 李 漢洙／1回) ディベート技術について講義を行う。 (14 藤原 章正・49 李 漢洙／12回)(共同) 実践ディベートの準備、実践ディベート、中間評価、ディベート本戦、公開ディベート、振り返りを行う。	オムニバス方式・共同(一部) 講義 6時間 演習 24時間
		広島大学	国際協力プロジェクト演習	環境研究に関するさまざまな分野の研究について、学術的価値や研究方法の違いを比較検討し、各自の分野の特異性や特徴を相対化して理解するとともに、分野横断型環境研究の可能性について議論する素地を鍛える。自らの研究を他分野の研究者に伝えるスキルを習得するとともに、他の分野の研究についても概略を把握し、学術的議論ができる能力を身につけることを到達目標とする。	
		大広島学島	国際公務員実務演習A	参加型計画、プロジェクトモニタリングなどの政府開発援助(ODA: Official Development Assistance)の主要なスキームを取り上げ、プロジェクトの実践的な管理方法やDAC5基準を使用した事業評価を学ぶ。具体的にはプロジェクト・サ	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広島大学		イクル・マネジメント（PCM：Project cycle management）に関するワークショップに参加し、プロジェクトのモニタリングと評価方法を実施し、国際協力プロジェクトの事例研究を学ぶ。到達目標は次のとおり。 1) PCM ワークショップを通じて PDM(Project Design Matrix)の論理を理解する 2) プロジェクトのモニタリングと評価のためのアード・バリュー・マネジメントと DAC 5 の基準を学ぶ 3) 国際協力事業のモニタリングと評価を実施する。	
	広島大学	国際公務員実務演習 B	将来、国際公務員や国際 NGO への就職を目指すためのキャリア開発について基礎的な知識を得て自らのキャリア計画を作成することに加え、履歴書の作成や国連の採用サイトを使った演習、プロジェクトプロポーザルの書き方など、必要な文書を準備するための実践的スキルを身につけることを目的とする。	
	広島大学	International Environmental Cooperation Studies	（概要）本講義は、(i)気候変動と環境協力のための最先端研究を深く理解すること、(ii)国際環境協力の現状を理解すること、を目標に実施する。 これにより、 1. 国や地域の発展段階を考慮に入れて、現在と将来の問題を解釈できる能力 2. 先進国と途上国の両方の観点から、グローバルな環境問題のための軽減策と適応策に関する社会科学的、自然科学的な知識を応用できる能力 3. 低炭素社会を定義し、それを実現するための全体的なフレームワークをデザインできる能力を養成する。 （オムニバス方式／全 15 回） （14 藤原 章正／3 回） ガイドンス；高度交通システム（ITS）に基づく交通安全対策について講義する。 （38 力石 真／1 回） 気候変動と災害リスクマネジメントについて講義する。 （50 久保田 徹／1 回） 東南アジアの成長都市における都市気候問題について講義する。 （21 張 峻屹／1 回） アジアのための持続可能な都市形状とモビリティレベルについて講義する。 （5 MAHARJAN, KESHAV LALL／1 回） 気候適応策と貧困削減について講義する。 （12 金子 慎治／1 回） 公共財供給と気候変動について講義する。 （13 吉田 雄一郎／1 回） 社会的効率性と気候軽減策について講義する。 （49 李 漢洙／2 回） 地球温暖化と自然災害、再生可能エネルギーと社会について講義する。 （22 清水 欽也／1 回） 気候変動の国民意識について講義する。 （51 保坂 哲朗／2 回） 気候変動と生態系管理について講義する。 （52 TRAN DANG XUAN／1 回） 低炭素社会の確立における遺伝子工学を用いたバイオ燃料の生産について講義する。	オムニバス方式

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	I n t e r a t i o n a l S t u d i e s	広島 大学	演習C	自らの研究テーマに関連する研究論文をレビューし、まとめる力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して、既存研究のまとめ方・伝え方、自らの研究の独自性・貢献のまとめ方・伝え方を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	グ ラ ー ツ 大 学	Environmental and Technology Assessment 本科目は環境の状況に関する重要な評価ツールに着目し、特にその応用と今後の開発の可能性に焦点を当てる。 履修者は、環境影響評価（EIA）、戦略的環境評価（SEA）、技術評価（TA）、持続可能性影響評価（SIA）、健康影響評価（HIA）、ライフサイクル分析（LCA）などの概念、およびその手法とツールの応用範囲を理論と実践の両面で理解できるようになる。さらに、これらのツールの長所と短所を理解し、所与の問題の文脈に合ったツールを選び、適切な枠組み要件を規定する力を身につける。また、これらのツールに関する実際の研究上の課題やその前進、発展の機会についても学ぶ。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Waste and Recycling 廃棄物管理はその廃棄物を出す企業と引き受ける企業の両者が行うべき課題である。本科目は両者について提供する。発生するさまざまな種類の（固形）廃棄物と企業に可能な取り扱い方法、（企業廃棄物管理のコンセプト立案や包装規制など）説明の必要な法的根拠について概観する。企業が廃棄物の分別や処理について適切な戦略を立案すれば、環境保護と企業効率の双方にとって有用である。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Environmental Decision Making 本科目では環境の文脈における意思決定を対象とし、心理学、行動／実験経済学、社会学、ゲーム理論、神経経済学のインサイトを考慮に入れることにより、人がどのように意思決定をしていくかを概観する。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Seminar for Data in System Sciences データ応用技術のワークショップ（データソース、データ前処理、データ分析、機械学習、ニューラルネットワーク、AI など）。データ分析の課題と可能性を理解することを目標とする。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Renewable Resources - Chemistry and Technology I 本科目の最大目標は再生可能資源に関する知識の伝授である。バイオ原料とその化学、分析論、生体高分子、ロジスティックスと地域のテーマ、バイオリファイナリー、グリーンケミストリー、バイオ環境における調整テクノロジーなどの基礎レベルの化学について簡潔に説明する。履修者は、「グリーン」ケミストリーで可能な批判的分析やバイオ素材の調整で用いることのできる単位操作の意思決定について学ぶ。バイオ素材を取り扱う場合の分析的・化学的側面は無視できないもので、履修者はバイオ原料を取り扱う場合の課題に気付く。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Renewable Resources - Chemistry and Technology II 講義では、化学産業における再生可能資源の活用について扱う。特に炭水化物の化学と生産加工への転換可能性が中心となる。また、講義の他のパートでは、再生可能資源の物質フローや（グリーンバイオリファイナリーのような）再生可能資源に基づく生産加工の実例を選定し、扱う。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Earth's Climate System and Climate Change 地球気候系（基礎的専門用語、構成要素、現象学、均衡原則）、古気候と気候の歴史、気候の観測、構成要素のタイプ、気候の分類、物理的気候メカニズムと生物地球化学的サイクル、気候のモデリングと予測、人為的な気候変動、地球温暖化と変動；気候変動と経済。参加者の知識レベルと興味を中心に勘案し、上記の多様なサブテーマについて専門性を加減しつつ解説する余地はある。	
		グ ラ ー ツ 大 学	Strategic Sustainability Management 本科目では、以下の内容を扱う。 ・企業の社会的責任（CSR）とサステナビリティ ・企業の社会的責任（CSR）と戦略的経営 ・ステークホルダー管理 ・インサイドアウト（CSR の外部手段） ・アウトサイドイン（サプライチェーンマネジメント） ・レジリエンス管理としてのサステナビリティ・マネジメント：危機とイノベーションの管理 ・CSR と競争優位性 ・CSR の成果測定 ・サステナビリティ報告書をはじめとした CSR コミュニケーションツール ・中小企業の CSR	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	Specialization科目	グライツ大学 Sustainability Entrepreneurship	本科目では、環境、経済、社会のサステナビリティという一般理念に立脚し、企業のスタートアップにおいて持続可能な起業家の活動を企画立案することにフォーカスする。履修生は起業家精神と革新的な製品・サービスの創出について学ぶ。 スタートアップ企業の創業に関する理論・実践両面の意義について説明後、プロジェクト・グループの中で持続可能なビジネスアイデアを創出することを科目の中心テーマとする。グループでビジネスプランを立案、フィードバックのギブアンドテイクと統合を行い、最後の数回の授業では実際にアイデアを事業化する演習を行う。ビジネスプランには潜在的市場の分析、競合他社の分析、財務プラン、経営プラン、戦略のコンセプトなどが含まれる。 科目の終わりには各プロジェクト・グループが内外の専門家で構成される審査員の前でビジネスプランを発表しなければならない。	
		グライツ大学 Eco-Controlling	本科目の履修者は、エコ・コントロールの諸基準、ツール、手法を概観する。特に、企業の立場から環境保護の機会と脅威、企業内部の強みと弱みを分析するとともに、組織のエコ・パフォーマンスに関する企画立案、管理、報告を行う。具体的には、エコバランス、物質フロー分析、環境コスト会計、さまざまな環境志向評価のアプローチなどの手法を議論する。また、環境／サステナビリティ・パフォーマンスの測定についても学ぶ。	
		グライツ大学 Sustainable Innovation	本科目では、個別の製品、サービス、プロセスのイノベーションを越える持続可能なイノベーションのプロセスについて体系的な理解の構築を目指す。持続可能なイノベーションには社会、文化、制度のイノベーションも必要である。換言すれば、持続可能なイノベーションとは既存の組織や製品に対する信頼性の高い代替物を創り出し、それらがサステナビリティの潜在力を解き放つことができるようなシステムの革新である。より持続可能性の高い生産・消費形態を推進するにはさまざまなレベルの戦略が必要となる。企業レベルではより持続可能な製品・サービスの創出、政策レベルではサステナビリティのための革新的システムの条件創出、そして市民社会のレベルでは新しい利用・消費慣行の醸成と適正な方法で需要を統合していくことが求められる。	
		グライツ大学 Product and Service Development	本科目では漸進的な製品イノベーションとブレークスルーによる製品開発（急進的な製品イノベーション）を区別する。新製品のケーススタディと具体的なグループ・プロジェクトに基づき、履修者は適切な方法論を含む製品開発の最先端アプローチの基本を学ぶ。ここでは既存顧客でも将来の顧客グループでも嗜好プロフィールの調査ではステークホルダー分析がきわめて重要な役割を果たす。さらに、いわゆる「ファジー・フロントエンド」にフォーカスすることにより、履修生は、はっきりと定義されない市場とニーズに取り組み、シナリオ・テクニクやラピッドプロトタイピングといった未来志向のテクニクで将来の事業機会を見つけることを学ぶ。さらに、これらの機会をどのように持続可能で市場性の高い製品に変えていくか戦略的に考察することが、結果として本科目の一部となる。	
		グライツ大学 Value Chain Management	本科目では、バリューチェーン管理（VCM）に不可欠な基本コンセプトと諸原則が、とりわけ「循環型経済」と「産業エコロジー」との関わりで論じられる。履修者のVCMについての理解を深めるためケーススタディも討議される。さらに本科目の実践志向による貢献度を高めるため、ゲストによる講義や現地視察旅行も行う。	
		グライツ大学 Research Project Sustainability Management	本学で現在進行中の研究プロジェクトに緊密に関わる研究活動を選定し、本科目の内容とする。本科目の目標は、チームで行う社会科学研究の厳選された手法や手段を活用する力を身に付けることである。	
		グライツ大学 Sustainability and Environmental Management	本科目の履修者は、サステナビリティと環境管理の選定したテーマについて自らが責任を負い調査研究を行う。さまざまなコンセプトとアプローチの批判的考察に重点が置かれる。参加者は学期の終わりに研究成果と論文を発表し、その知見について討議する。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	I n t e g r a t i o n 科目	グ ラ ッ ツ 大学	Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development	本科目ではエネルギーと持続可能なライフスタイルについて具体的ケーススタディに取り組む。さまざまな連関を理解するため、履修者は特定のサブテーマごとに小グループに分かれる。資源活用、都市化、エネルギー効率などのグローバルな論点に関するテーマと問題の学際的つながりを、より小規模な地域のスケールで考察していく。(個人的な) エネルギー利用のコンセプトも、サステナビリティ全般のテーマと同様に議論対象とする。	
		グ ラ ッ ツ 大学	Social Competences for Managing Sustainable Development	持続可能な開発に関わるマネージャーとプロフェッショナルには、経済、環境、社会の分野で学術的・学際的な知識が求められているのみならず、より持続可能な世界を目指す変革を管理運営し、貢献していくためのスキルと社会的能力も求められている。 プロジェクト、プログラムおよびイニシアティブの設計、プロジェクトの管理、リーダーシップ (の共有)、学際的・分野横断的チームの調整、ステークホルダーの参加、相反する利害への対処、効果的なコミュニケーションなどが管理運営のタスク例である。これらのタスクでは持続可能な開発についての専門的能力に社会的能力が加わることでポテンシャルを十全に発揮することができる。 持続可能な開発に関する実際のテーマ、ケーススタディ、そして履修者のニーズの現状を踏まえ、持続可能な開発の管理運営に必要な社会的能力を選び、討議と訓練を行う。	
		グ ラ ッ ツ 大学	Master Seminar	修士論文の作成と並行したセミナーを共同で実施し、知識の相乗効果と意見交換により修士論文の質を互いに高め合う。 (1 Baumgartner, Rupert) サステナビリティマネジメント、循環経済の観点からフィードバックを行う。 (5 Posch, Alfred) イノベーション研究、再生可能エネルギーの観点からフィードバックを行う。 (2 Stern, Tobias) バイオ経済、イノベーション研究の観点からフィードバックを行う。 (3 Füllsack, Manfred) システム科学、デジタル変換の観点からフィードバックを行う。	共同
修士論文に関する科目		広 島 大学	修士論文	人文科学、社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、既存研究のレビュー、調査・実験の方法、データ処理・分析手法、論文執筆、発表方法の習得(研究倫理を含む)等、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため、指導を行う。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修士論文に関する科目	広島大学		(4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
	グラーツ大学	Master Thesis	修士論文を作成し、口頭試験を行う。 (11 Brudermann, Thomas) 持続可能な発展、意思決定に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (1 Baumgartner, Rupert) サステナビリティマネジメント、循環経済に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (5 Posch, Alfred) イノベーション研究、再生可能エネルギーに関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (2 Stern, Tobias) バイオ経済、イノベーション研究に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (6 Aschemann, Ralf) 循環経済、サステナビリティ評価に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (12 Rauter, Romana) ビジネスモデル、持続可能なイノベーションに関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (3 Füllsack, Manfred) システム科学、デジタル変換に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（人間社会科学研究所 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻（修士課程））（広島大学）				
科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大学院 共通 科目 ／ 持 続 可 能 な 発 展 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	（概要）被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。 （オムニバス方式／全8回） （15 川野 徳幸／2回） 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要 （40 小宮山 道夫／2回） 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割 （19 河合 幸一郎／1回） 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題 （20 中坪 孝之／1回） 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策 （10 山根 達郎／2回） 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方	オムニバス方式
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	（英文） This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Masaru Ichihashi “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective” （和訳）本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世	オムニバス方式

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目	大学院共通科目／持続可能な発展科目	広島大学		界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 (オムニバス方式／全8回) (12 金子 慎治／1回) 本講義のガイダンス、概要説明 (65 三角 幸子／1回) JICAの活動、役割 (13 吉田 雄一郎／1回) 日本の政策経験 (11 市橋 勝／1回) 産業政策と経済成長 (21 張 峻屹／2回) 日本の環境政策の歴史 (16 吉田 修／1回) 日本のODAとアジア政策 (2 片柳 真理／1回) 平和構築から見た広島の復興	
		広島大学	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects. lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall "Japanese experience of development in Agriculture and Remote area" lesson3 Koki Seki "Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living" lesson4 Kinya Shimizu "A History of Education in Japan"	オムニバス方式

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大学院 共通科目／ 持続可能な 発展科目	広島大学	lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion (和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。 これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。 (オムニバス方式／全8回) (25 馬場 卓也／2回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ (5 MAHARJAN, KESHAV LALL／1回) 農業開発における日本の経験 (3 関 恒樹／1回) 日本の現代化における社会文化的側面 (22 清水 欽也／2回) 日本における教育開発 (23 田中 純子／1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究 (24 森山 美知子／1回) 日本のヘルスケアシステム	
		広島大学	ダイバーシティの理解 SDGs の達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (17 坂田 桐子・44 櫻井 里穂／2回)(共同) 1. ダイバーシティに関する理論：特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。 (57 北梶 陽子／5回) 2. ゲーム演習：多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目			(18 大池 真知子・57 北梶 陽子／1回) (共同) 3. ディスカッション：理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。	
	大学院 共通科目／ キャリア開発・ データリテラシー科目	広島大学	データリテラシー (概要) ICT の普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。 (オムニバス方式／全8回) (45 宮尾 淳一／4回) ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AI への応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。 (31 柳原 宏和／4回) 本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフト R を用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	オムニバス方式
	広島大学	医療情報リテラシー	(概要) ゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。 (オムニバス方式／全8回) (59 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究 (32 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性 (46 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法 (34 栗井 和夫・33 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用 (60 田中 剛／1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベ ー シ ッ ク 科 目	大 学 院 共 通 科 目 ／ キ ャ リ ア 開 発 ・ デ ー タ リ テ ラ シ ー 科 目	広 島 大 学		(23 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用 (47 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用 (37 久保 達彦／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習	
		広 島 大 学	人文社会系キャリアマネジメント	この授業の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
		広 島 大 学	理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報(表情、視線、態度など)は重要な意味を持つため、本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3) 高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。 授業の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素(視線、あいづち、うなずき等)が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を修得する。	
		広 島 大 学	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する。講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	
		広 島 大 学	MOT 入門	本講義はMOTとベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベーション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。	
		広 島 大 学	アントレプレナーシップ 概論	イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目			ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。	
	研究科共通科目	広島大学 データビジュアライゼーション A	本講義では、社会データを可視化する方法について、概念からコンピュータによる実装方法までを論ずる。当講義ではまず、データの持つ特徴を直観的に理解するために必要な基本的な統計学の概念、および作図法を学ぶ。並行して無料の統計ソフトである R を用いた実装方法までを実習形式で学ぶ。当該手法はデータの大規模化が進む中で、平均や分散などの伝統的な統計量では測りきれないデータの特徴を可視化する極めて有用な手法であると広く認識されている。 本講義の到達目標は、(1) データを描写する作図法を基本的な統計概念と共に理解する、(2) R を用いて実際に作図が可能になる、である。	
		広島大学 データビジュアライゼーション B	本講義では、社会データを可視化する方法について、概念からコンピュータによる実装方法までを論ずる。当講義では、データを用いて予測を行う方法、因果推論を行う方法について学んだあとに、その可視化の方法について論ずる。さらにより数値データだけではなく、文字データの扱い方についても併せて学ぶ。また並行して無料の統計ソフトである R を用いた実装方法までを実習形式で学ぶ。 本講義の到達目標は、(1) 予測と因果推論の基礎的な概念を理解する、(2) R を用いて結果を可視化する方法を理解する、(3) 文字データの可視化の方法を理解する、である。	
		広島大学 環境原論 A	現在の環境問題の基底を理解することにより、環境問題を産み出している要素を把握し、要素の連関性を分析にすることを通して、顕在化している深刻な問題から顕在化しているわけではないが将来的に大きな問題となる可能性がある問題まで広がりを見せる現代の環境問題に対処できるように、知的基盤と俯瞰的活用力の習得を目指す。	
		広島大学 環境原論 B	現在から将来にかけての主要環境問題は持続可能な社会のためのものである。これは現在顕在化しているわけではないが将来的に大きな問題となる可能性のある問題である。この問題の解決のために求められる目標の設定と達成のための個人・政策・経済・社会・技術に関わる手法を全球に適用可能なものとする方法論の基礎の習得を目指す。	
	基盤科目	広島大学 リサーチメソッド	リサーチメソッドでは、社会科学論文の作成をゴールとする研究活動の展開方法を実践的に習得する。論文作成を見据え、明確な問題設定をするための先行研究の収集、科学論文の読み方とその包括的なレビューの方法、リサーチ・クエスチョンと仮説の構築、仮説検証を行うためのデータ収集の技法やその分析方法の選定方法、分析結果の提示やそのプレゼンテーション技法に至るまでのプロセスを、実践的に習得する。	
		広島大学 社会科学のための数理・計量分析	社会科学のために必要な基礎的な数学・方法を重点的に学びなおす。具体的には、(1)統計的分析方法の基礎、(2)検定の考え方、(3)数理モデルに必要な数学基礎、(4)経済社会への応用例を中心にした講義内容。また、データ分析に必要なプログラミング言語として R の演習を行う。	
		広島大学 調査方法論基礎	調査方法論基礎では、開発途上国に適用可能な最新の社会調査技法の獲得を目指す。科学論文の作成を見据えた明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定やその設計、実査、データ分析、結果の提示に至るまでのプロセスを客観的・科学的に行うための基本的技法を習得する。また調査倫理や調査データ管理の方法についても習得する。	
		広島大学 持続可能な発展論基礎	持続可能な発展論基礎では、Jeffrey D. Sachs による著書、The Age of Sustainable Development を教科書とし、持続可能な発展論に関する主要な議論とその背景となる考え方を包括的に学ぶことを通し、多様な観点から持続可能な発展を論じる基盤を習得する。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広島大学 開発ミクロ経済学Ⅰ	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動に及ぼす変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学Ⅰでは、現代の開発ミクロ経済学における消費者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
		広島大学 開発ミクロ経済学Ⅱ	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動に及ぼす変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学Ⅱでは、現代の開発ミクロ経済学における生産者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
		広島大学 開発マクロ経済学Ⅰ	開発マクロ経済学Ⅰでは、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学Ⅰでは、現代の開発マクロ経済学における基礎理論とその分析ツールに重点を置く。	
		広島大学 開発マクロ経済学Ⅱ	開発マクロ経済学Ⅱでは、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学Ⅱでは、開発マクロ経済政策を議論する上で重要な経済成長論とその分析ツールに重点を置く。	
		広島大学 開発計量経済学Ⅰ	開発計量経済学Ⅰでは、開発政策の効果測定に必要な計量経済学の理論を理解し、それを研究に応用できるスキルを養うことを目的とする。最小二乗法(OLS)の概念、OLS が因果関係を示すための条件(不偏性の条件)、OLS の漸近論を理解した後、実践的な応用方法を習得する：交差項の使用法、ダミー変数の使用法、部分効果の理解、差分の差分法、固定効果法、操作変数法、同時方程式推定法、不連続回帰分析。	
		広島大学 開発計量経済学Ⅱ	開発計量経済学Ⅱでは、引き続き開発政策の効果推定に必要な計量経済のツールの習得を目指す。開発経済における計量経済においては、交通手段の選択など、人々の「選択」を分析したり、被説明変数の一部しか研究者が観察できない状況で推定をする必要があったり、サンプルセレクションの問題に直面する。よって、本講義では離散モデルの習得を目指す：プロビット法・ロジット法、順序プロビット法・ロジット法、多項ロジット法、トビット回帰法、打ち切り回帰法、ヘックマン・サンプルセレクション修正法、ハザード関数モデルなどの期間分析法。	
		広島大学 Geographic Information System Technology	都市・交通計画、環境、エネルギー、農業、防災など様々な分野で必要となる空間の情報を処理・解析するための方法について、地理情報システム(GIS)を活用した地理空間分析の諸手法について講義するとともに、各分野での活用事例を紹介することを通して、GISを用いて分析・解決する能力を養成する。本講義では、(1)空間的データの表現を理解すること、(2)GISに関する基礎知識を習得すること、(3)GISを用いた基本的な空間情報処理を行うことができること、(4)GISを用いた空間データのモデリングに関する応用技術を習得すること、を目指す。	
		広島大学 経済統計分析論	経済統計の特徴とその活用の仕方、分析方法などの基礎を習得する。GDP統計、SNA、財務データ、国際データ、産業連関表などを中心に解説する予定。 具体的な内容は、概ね以下の通り。 (1) ガイダンス：受講に当たっての注意事項と講義の計画 (2) 経済データの特徴(様々な経済データ) (3) 産業連関表の枠組みについて (4) 投入係数表と線形代数の基礎	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	Specialization科目	広島大学	(5) 逆行列計算と経済波及効果について (6) 輸入内生モデルと IO の応用 (7) 確率・統計の基礎概念（平均と分散） (8) 因果関係と相関関係の区別について (9) 相関係数とその応用 (10) 最小自乗法，単回帰分析 1 (11) 最小自乗法，単回帰分析 2 (12) 検定統計量の意味について (13) 消費関数，投資関数の実際例 (14) 構造変化分析，ダミー変数 (15) 時系列モデルの基礎	
		広島大学	グローバルガバナンス論 グローバルガバナンスは、国際的なアジェンダにとって非常に重要であり、グローバルな問題や懸念に対処するために協力を維持するための努力基盤となる。世界は今後ますますセキュリティの脅威、経済的な崩壊、開発の懸念、そして悪化する環境条件に対処しなければなりません。国は、国連、WTO、環境変化を管理する条約などの国際機関の設立を通じて、これらの課題に対処するための努力を調整しようとしています。本講義では、国家、非国家の両方の構造と、安全保障、経済、人権、開発及び環境の分野における人類の共通の問題を解決するための取り組みについて説明する。南北の対立、国家間の協力のモデルと機構、ガバナンス構築に貢献する非国家主体の役割と国家との関係などを扱う。	
		広島大学	都市経済学 都市経済学では、なぜ都市が存在するのか、なぜ都市は成長するのか、地方自治体はどのようにしてそのような成長を促進できるのか、といった視点から、都市構造や開発パターンについて議論する。たとえば首都圏の特定の地域が他の地域よりも急速に成長するのはなぜか、企業や世帯は、どのようにして特定の大都市圏内において立地場所を決めるのか、何が土地の価格を決定し、そしてこれらの価格はどのように空間を越えて変わるか、などがそこでは重要な問題となる。さらに本講義では、都市問題の空間的側面、すなわち、貧困、住居、そして郊外化やスプロールリングなどに焦点を当て、最適な都市開発に必要な政策を概説する。	
		広島大学	農村開発論 現在、世界人口の大部分は農村に居住している。そこではいわゆる非効率的な資源開発や、それに起因する環境破壊や資源の枯渇だけでなく、社会インフラの不足、破壊などの問題が存在する。本講義ではまず、農村部におけるこれら諸問題を概説したのち、これらを理論的に分析するための枠組みを提示し、そのうえで都市部との関係に留意しつつも農村住民の視点に立ち、環境と調和し農村の限りある資源を持続的に活用する最適な農村開発政策とはなにか、について明らかにする。	
		広島大学	技術経営論 技術経営論では、主に企業レベルの技術・イノベーションとオペレーションを対象に、同分野の基礎的な理論に加えて、関連するリーンオペレーション、全社的な品質管理などの実践的な管理手法について講義する。経営学の主要な分野である経営戦略、組織、人的資源管理との関連も検討する。また、先進国、新興工業国、後発国それぞれの企業事例について紹介したうえで、習得した理論や管理手法を用いた学生による分析・評価を実施する。	
		広島大学	人的資源開発論 人的資源開発論では、企業をはじめ各種組織で働く従業員などの知識・スキル開発を中心的な論点とする。まず、成人学習や研修の管理・評価に関する理論的基礎と実践的手法を習得させる。知識・スキルの具体的な事例としては、とくに創造性、リーダーシップと異文化適応に重点を置き、学生による研修事例の分析・評価も行う。関連分野と位置付けられるキャリア開発や知識経営、さらに国際人的資源開発論として多国籍企業、各国企業や社会・国レベルの人的資源開発の国際比較も取り上げる。	
		広島大学	公共管理論 公共管理論では、公的機関による組織活動と、こうした組織活動を効率的・効果的に実施するための適切な管理のあり方について、企業組織との比較の観点に配慮した形で議論を進める。具体的には、new public management を含む「公共管理」の基本的な枠組みについて整理したうえで、マネジメント・サイクルの考え方や、各種の経営資源とそれらの効率的・効果的な利用について検討する。また、組織の事例として先進国と途上国の公的機関及び国際機関を取り上げ、各事例の組織管理、人事管理について考察する。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科目	広島大学 経営組織論	経営組織論では、組織運営を行う際に必要となる諸問題について、組織行動論に代表されるミクロ組織論の理論的枠組みに基づきながら、心理学や社会学などの学際的知見を踏まえた形で講義を進める。具体的には、個人・集団レベルの行動や組織構造・デザインといった基本的な内容を検討したうえで、個人のモチベーションや職務満足度、集団におけるリーダーシップ、コミュニケーション、さらに組織文化、人的資源管理、組織変革・開発について考察する。	
		広島大学 経営戦略論	経営戦略論では、企業の中長期的な目標を実現するために整合的な企業行動をとるための指針としての経営戦略を学ぶ。具体的には、戦略の概念と理論、戦略形成の手法とプロセス、戦略が機能する論理について学ぶ。特に、SWOT 分析、垂直統合と競争優位、コストリーダーシップと線品差別化、戦略的柔軟性、標準・ネットワーク・プラットフォーム、戦略的提携、多角化戦略・資源配分などについて習得する。	
		広島大学 環境政策論	環境政策論では、環境問題を市場と環境との相互作用として捉える環境経済学を基盤とし、国内および国際的なレベルでの環境規制政策と天然資源管理政策の理論と実践を扱う。抽象的な経済モデルによる理論的説明とアジア、アフリカを中心に実際の環境政策、資源管理政策とを比較することによって、理論と実践のそれぞれの役割と意味について考察する。	
		広島大学 都市政策論	都市政策論では、日本の国、地方レベルで都市政策の問題と計画問題を参考に、他の国の都市政策との比較を行う。トピックは、都市行政、都市計画、各種地域レベルでの公共政策、財政、国との関係、コミュニティ開発、経済と社会の不平等、運営と管理、そして環境の持続可能性など、さまざまな観点を扱う。比較では、欧米などの先進国、中国やASEAN などの経済的に急速に発展している途上国、アフリカでの低所得国など、国の発展と地域の違いなどを踏まえたいくつかの大きなグループに分ける。	
		広島大学 国際協力論	国際協力論では、国際協力とは何か、その理念と実践を学ぶ。具体的には南北問題、地球公共財、国連・国際機関、政府開発援助(ODA)、人道支援、NGOs、MDGs/SDGs などの基礎的な知識を習得し、今後の国際協力のあり方を議論するための能力を養う。また、国際協力をテーマとした多様な分野の研究論文をレビューしながら、習得した知識や国際協力の実情を踏まえ、今後の国際協力のあり方について議論する。	
		広島大学 労働政策論	労働政策論では、労働経済学の理論を講義するとともに、その実証例をバランスよく配合し、様々な社会問題を理論的に説明する力を養うことを目的とする。我々が日常耳にする社会問題の多くの部分は、労働に関係する。具体的には、配偶者控除制度と103万円の壁、最低賃金と雇用の関係、移民の流入と賃金といった議題である。これらを理論的に説明する力を養い、さらに最新の実証研究の学術的な知見を理解することを目的とする。理論は、余暇選択理論、労働供給、労働需要、労働市場均衡、人的資本理論の順で進めていく。	
		広島大学 国際金融論	国際金融論では、開発途上国の国際金融政策に関する課題に取り組むために必要な経済分析手法の獲得を目指す。外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学んだ上で、解放経済の下での財政・金融政策の効果を理論的及び実証的な視点から習得する。また、国際通貨体制や金融危機、各国のマクロ経済政策協調など開発途上国にとって重要な事柄について、国際金融の歴史的推移も含めて理解する。	
		広島大学 演習A	国際経済開発に関するジャーナルとそれに所収されている論文の質の違いを理解する力を養う。高い水準の論文を探して読む力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して研究成果のまとめ方・伝え方の基礎を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する基礎力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広島大学	(1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
	広島大学	演習B	国際経済開発に関する高い水準の論文を探して、批判的に読む力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して研究成果のまとめ方・伝え方を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	広島大学	(2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
	I n t e g r a t i o n 科 目	広島大学	フィールドワーク	フィールドワークとは、国内外のフィールドで実施される調査研究活動である。本科目は、指導教員の指導のもとに学生が作成した、フィールドワーク実施計画書(調査目的、期間、地域、調査内容、連絡先、指導教員のサインなど)に基づき行われる。
		広島大学	グローバルインターンシップ	国内外の民間企業、国際機関、政府機関、非営利団体などへのインターンシップを通じて、企業や組織の運営を学び、関連する社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る実習科目である。
		広島大学	Developing Designing Ability	(概要) インターンシップ研修前の過程で、相互の多次元知識を批判的に関連づけ、自らの経験を他者に説明・議論するために、ディベートの実践力を習得する。期待される効果は、 (1) 専門職業人になるためのコンピテンシーを理解し、ディベート技法を習得すること。 (2) ディベート演習を通じて、課題解決能力すなわち課題の本質を理解し、複数の
				オムニバス方式・共同(一部) 講義 6時間 演習 24時間

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	I n t e r n a t i o n a l 科 目	広島大学		解決策を模索し、関連する知識や能力を動員して解決すること、を身につけること。 (3)実践的ディベートを通じて、複眼的な視野からディベートの主題を理解し、分析的にかつ論理的に議論を展開できる能力を身につけること。 (オムニバス方式／全 15 回) (14 藤原 章正／2 回) 背景、目的、ディベートの概要について講義を行う。 (49 李 漢洙／1 回) ディベート技術について講義を行う。 (14 藤原 章正・49 李 漢洙／12 回) (共同) 実践ディベートの準備、実践ディベート、中間評価、ディベート本戦、公開ディベート、振り返りを行う。	
		広島大学	国際協力プロジェクト演習	環境研究に関するさまざまな分野の研究について、学術的価値や研究方法の違いを比較検討し、各自の分野の特異性や特徴を相対化して理解するとともに、分野横断型環境研究の可能性について議論する素地を鍛える。自らの研究を他分野の研究者に伝えるスキルを習得するとともに、他の分野の研究についても概略を把握し、学術的議論ができる能力を身につけることを到達目標とする。	
		広島大学	国際公務員実務演習 A	参加型計画、プロジェクトモニタリングなどの政府開発援助 (ODA : Official Development Assistance) の主要なスキームを取り上げ、プロジェクトの実践的な管理方法や DAC 5 基準を使用した事業評価を学ぶ。具体的にはプロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM : Project cycle management)に関するワークショップに参加し、プロジェクトのモニタリングと評価方法を実施し、国際協力プロジェクトの事例研究を学ぶ。到達目標は次のとおり。 1) PCM ワークショップを通じて PDM(Project Design Matrix)の論理を理解する 2) プロジェクトのモニタリングと評価のためのアード・バリュー・マネジメントと DAC 5 の基準を学ぶ 3) 国際協力事業のモニタリングと評価を実施する。	
		広島大学	国際公務員実務演習 B	将来、国際公務員や国際 NGO への就職を目指すためのキャリア開発について基礎的な知識を得て自らのキャリア計画を作成することに加え、履歴書の作成や国連の採用サイトを使った演習、プロジェクトプロポーザルの書き方など、必要な文書を準備するための実践的スキルを身につけることを目的とする。	
		広島大学	International Environmental Cooperation Studies	(概要) 本講義は、(i)気候変動と環境協力のための最先端研究を深く理解すること、(ii)国際環境協力の現状を理解すること、を目標に実施する。 これにより、 1. 国や地域の発展段階を考慮に入れて、現在と将来の問題を解釈できる能力 2. 先進国と途上国の両方の観点から、グローバルな環境問題のための軽減策と適応策に関する社会科学的、自然科学的な知識を応用できる能力 3. 低炭素社会を定義し、それを実現するための全体的なフレームワークをデザインできる能力を養成する。 (オムニバス方式／全 15 回) (14 藤原 章正／3 回) ガイダンス ; 高度交通システム (ITS) に基づく交通安全対策について講義する。 (38 力石 真／1 回) 気候変動と災害リスクマネジメントについて講義する。 (50 久保田 徹／1 回) 東南アジアの成長都市における都市気候問題について講義する。	オムニバス方式

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	I n t e g r a t i o n 科 目	広島 大学		(21 張 峻屹／1回) アジアのための持続可能な都市形状とモビリティレベルについて講義する。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL／1回) 気候適応策と貧困削減について講義する。 (12 金子 慎治／1回) 公共財供給と気候変動について講義する。 (13 吉田 雄一郎／1回) 社会的効率性と気候軽減策について講義する。 (49 李 漢洙／2回) 地球温暖化と自然災害、再生可能エネルギーと社会について講義する。 (22 清水 欽也／1回) 気候変動の国民意識について講義する。 (51 保坂 哲朗／2回) 気候変動と生態系管理について講義する。 (52 TRAN DANG XUAN／1回) 低炭素社会の確立における遺伝子工学を用いたバイオ燃料の生産について講義する。	
		広島 大学	演習C	自らの研究テーマに関連する研究論文をレビューし、まとめる力を養う。定期的な研究の進捗報告を通して、既存研究のまとめ方・伝え方、自らの研究の独自性・貢献のまとめ方・伝え方を習得するとともに、他の研究報告に対して批判的に検討し議論する力を身につけさせる。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	I n t e g r a t i o n 科 目	広島大学		(8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策, 教育政策, また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業, 公的機関, 非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から, 平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減, 地域経済開発, 国際比較, 比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策, 資源管理政策, 環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発, インフラ整備, 交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	
			修士論文	人文科学, 社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに, 修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定, 検討課題の整理, 既存研究のレビュー, 調査・実験の方法, データ処理・分析手法, 論文執筆, 発表方法の習得(研究倫理を含む)等, 研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため, 指導を行う。 (7 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。 (1 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。 (2 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い, 受講生の研究発表と討論を通じて, 修士論文の作成を目指す。 (3 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに, 各学生の研究発表と討論を通じて, 修士論文の作成を目指す。 (4 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。 (5 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発, 持続可能な農業に関する研究指導を行う。 (6 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。 (8 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策, 教育政策, また企業内労働市場などに関する	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
修士論文に関する科目	広島大学		研究指導を行う。 (9 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。 (10 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。 (11 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。 (12 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。 (13 吉田 雄一郎) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻（修士課程））（グラーツ大学）					
科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
ベーシック科目	グラーツ大学	The Sustainability Challenge	本科目では、サステナビリティの主要な課題について理解を深めるため、サステナビリティの問題に関する一連の科学論文を取り扱う。また論文の内容のみならず研究方法や科学論文の書き方にも重点を置く。これを踏まえ、各自が科学論文の草稿を作成し、それについて議論する。		
	グラーツ大学	Sustainable Development - Integrating Perspectives	本科目では、持続可能な開発に対する多様な考え方を理解するために、さまざまな価値志向やそれに伴う信念、すなわち世界観を捕らえようとしており、履修者には自らその探究に参加してもらう。本科目で分かることだが、サステナビリティの問題は、一面的世界観が過度に強調され、結果として衰退するところにあると理解できる。客観的知識と主観的知識が入り混じるこうした問題を構造的に理解するため、まず「世界観」というコンセプトを出発点とし、人口増加、貧困と食料安全保障、エネルギーと資源利用、生態系の安定性、都市化といった世界的課題に取り組む。これらの論点を取り上げるたびに、さまざまな科学が問題に持ち込むそれぞれの世界観や立場に目を向けていく。		
	グラーツ大学	Social Competences for Working in Inter- and Transdisciplinary Teams	学際的問題はきわめて複雑で不確実性が高く、価値観や社会的利害関係により特徴付けられる。そのため、効果的なコミュニケーション、チームワーク、ネットワーキング、グループやプロセスの調整のような能力がとりわけ重要となる。プロジェクト・メンバーには学際的な専門知識のみならず、さまざまな状況下の紛争解決スキル、また自身のスキルとその限界についての認識も求められる。社会的能力、実際の学際的問題、そして学生のニーズの現状を踏まえ、社会的能力を選び、討議と訓練を行う。		
	グラーツ大学	Methods for Inter- and Transdisciplinary Problem-solving	本科目では学際的・分野横断的問題の解決に役立つ重要な手法を選び、紹介する。さらに、それ以外の学際的・分野横断的手法やツールも紹介し、ケーススタディでその実際の応用について話し合う。		
	グラーツ大学	Data in System Sciences	本科目はデータソース、データマイニング、データ処理、データ分析、機械学習、ニューラルネットワーク、AI などデータの応用技術の基本を網羅する。		
専門科目	Specialization科目	グラーツ大学	Environmental and Technology Assessment	本科目は環境の状況に関する重要な評価ツールに着目し、特にその応用と今後の開発の可能性に焦点を当てる。 履修者は、環境影響評価（EIA）、戦略的環境評価（SEA）、技術評価（TA）、持続可能性影響評価（SIA）、健康影響評価（HIA）、ライフサイクル分析（LCA）などの概念、およびその手法とツールの応用範囲を理論と実践の両面で理解できるようになる。さらに、これらのツールの長所と短所を理解し、所与の問題の文脈に合ったツールを選び、適切な枠組み要件を規定する力を身につける。また、これらのツールに関する実際の研究上の課題やその前進、発展の機会についても学ぶ。	
		グラーツ大学	Waste and Recycling	廃棄物管理はその廃棄物を出す企業と引き受ける企業の両者が行うべき課題である。本科目は両者について提供する。発生するさまざまな種類の（固形）廃棄物と企業に可能な取り扱い方法、（企業廃棄物管理のコンセプト立案や包装規制など）説明の必要な法的根拠について概観する。企業が廃棄物の分別や処理について適切な戦略を立案すれば、環境保護と企業効率の双方にとって有用である。	
		グラーツ大学	Environmental Decision Making	本科目では環境の文脈における意思決定を対象とし、心理学、行動／実験経済学、社会学、ゲーム理論、神経経済学のインサイトを考慮に入れることにより、人がどのように意思決定をしていくかを概観する。	

科目 区分	開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科 目	グ ラ ー ッ 大 学	Seminar for Data in System Sciences データ応用技術のワークショップ（データソース、データ前処理、データ分析、機械学習、ニューラルネットワーク、AI など）。データ分析の課題と可能性を理解することを目標とする。	
		グ ラ ー ッ 大 学	Renewable Resources Chemistry and Technology I 本科目の最大目標は再生可能資源に関する知識の伝授である。バイオ原料とその化学、分析論、生体高分子、ロジスティックスと地域のテーマ、バイオリファイナリー、グリーンケミストリー、バイオ環境における調整テクノロジーなどの基礎レベルの化学について簡潔に説明する。履修者は、「グリーン」ケミストリーで可能な批判的分析やバイオ素材の調整で用いることのできる単位操作の意思決定について学ぶ。バイオ素材を取り扱う場合の分析的・化学的側面は無視できないもので、履修者はバイオ原料を取り扱う場合の課題に気付く。	
		グ ラ ー ッ 大 学	Renewable Resources Chemistry and Technology II 講義では、化学産業における再生可能資源の活用について扱う。特に炭水化物の化学と生産加工への転換可能性が中心となる。また、講義の他のパートでは、再生可能資源の物質フローや（グリーンバイオリファイナリーのような）再生可能資源に基づく生産加工の実例を選定し、扱う。	
		グ ラ ー ッ 大 学	Earth's Climate System and Climate Change 地球気候系（基礎的専門用語、構成要素、現象学、均衡原則）、古気候と気候の歴史、気候の観測、構成要素のタイプ、気候の分類、物理的気候メカニズムと生物地球化学的サイクル、気候のモデリングと予測、人為的な気候変動、地球温暖化と変動；気候変動と経済。参加者の知識レベルと興味を中心に勘案し、上記の多様なサブテーマについて専門性を加減しつつ解説する余地はある。	
		グ ラ ー ッ 大 学	Strategic Sustainability Management 本科目では、以下の内容を扱う。 ・企業の社会的責任（CSR）とサステナビリティ ・企業の社会的責任（CSR）と戦略的経営 ・ステークホルダー管理 ・インサイドアウト（CSR の外部手段） ・アウトサイドイン（サプライチェーンマネジメント） ・レジリエンス管理としてのサステナビリティ・マネジメント：危機とイノベーションの管理 ・CSR と競争優位性 ・CSR の成果測定 ・サステナビリティ報告書をはじめとした CSR コミュニケーションツール ・中小企業の CSR	
		グ ラ ー ッ 大 学	Sustainability Entrepreneurship 本科目では、環境、経済、社会のサステナビリティという一般理念に立脚し、企業のスタートアップにおいて持続可能な起業家の活動を企画立案することにフォーカスする。履修生は起業家精神と革新的な製品・サービスの創出について学ぶ。 スタートアップ企業の創業に関する理論・実践両面の意義について説明後、プロジェクト・グループの中で持続可能なビジネスアイデアを創出することを科目の中心テーマとする。グループでビジネスプランを立案、フィードバックのギブアンドテイクと統合を行い、最後の数回の授業では実際にアイデアを事業化する演習を行う。ビジネスプランには潜在的市場の分析、競合他社の分析、財務プラン、経営プラン、戦略のコンセプトなどが含まれる。 科目の終わりには各プロジェクト・グループが内外の専門家で構成される審査員の前でビジネスプランを発表しなければならない。	
		グ ラ ー ッ 大 学	Eco-Controlling 本科目の履修者は、エコ・コントロールの諸基準、ツール、手法を概観する。特に、企業の立場から環境保護の機会と脅威、企業内部の強みと弱みを分析するとともに、組織のエコ・パフォーマンスに関する企画立案、管理、報告を行う。具体的には、エコバランス、物質フロー分析、環境コスト会計、さまざまな環境志向評価のアプローチなどの手法を議論する。また、環境／サステナビリティ・パフォーマンスの測定についても学ぶ。	

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	S p e c i a l i z a t i o n 科目	グ ラ ー ツ 大学	Sustainable Innovation	本科目では、個別の製品、サービス、プロセスのイノベーションを越える持続可能なイノベーションのプロセスについて体系的な理解の構築を目指す。持続可能なイノベーションには社会、文化、制度のイノベーションも必要である。換言すれば、持続可能なイノベーションとは既存の組織や製品に対する信頼性の高い代替物を創り出し、それらがサステナビリティの潜在力を解き放つことができるようなシステムの革新である。より持続可能性の高い生産・消費形態を推進するにはさまざまなレベルの戦略が必要となる。企業レベルではより持続可能な製品・サービスの創出、政策レベルではサステナビリティのための革新的システムの条件創出、そして市民社会のレベルでは新しい利用・消費慣行の醸成と適正な方法で需要を統合していくことが求められる。	
		グ ラ ー ツ 大学	Product and Service Development	本科目では漸進的な製品イノベーションとブレークスルーによる製品開発（急進的な製品イノベーション）を区別する。新製品のケーススタディと具体的なグループ・プロジェクトに基づき、履修者は適切な方法論を含む製品開発の最先端アプローチの基本を学ぶ。ここでは既存顧客でも将来の顧客グループでも嗜好プロフィールの調査ではステークホルダー分析がきわめて重要な役割を果たす。さらに、いわゆる「ファジー・フロントエンド」にフォーカスすることにより、履修生は、はっきりと定義されない市場とニーズに取り組み、シナリオ・テクニックやラピッドプロトタイピングといった未来志向のテクニックで将来の事業機会を見つけることを学ぶ。さらに、これらの機会をどのように持続可能で市場性の高い製品に変えていくか戦略的に考察することが、結果として本科目の一部となる。	
		グ ラ ー ツ 大学	Value Chain Management	本科目では、バリューチェーン管理（VCM）に不可欠な基本コンセプトと諸原則が、とりわけ「循環型経済」と「産業エコロジー」との関わりで論じられる。履修者の VCM についての理解を深めるためケーススタディも討議される。さらに本科目の実践志向による貢献度を高めるため、ゲストによる講義や現地視察旅行も行う。	
		グ ラ ー ツ 大学	Research Project Sustainability Management	本学で現在進行中の研究プロジェクトに緊密に関わる研究活動を選定し、本科目の内容とする。本科目の目標は、チームで行う社会科学の厳選された手法や手段を活用する力を身に付けることである。	
		グ ラ ー ツ 大学	Sustainability and Environmental Management	本科目の履修者は、サステナビリティと環境管理の選定したテーマについて自らが責任を負い調査研究を行う。さまざまなコンセプトとアプローチの批判的考察に重点が置かれる。参加者は学期の終わりに研究成果と論文を発表し、その知見について討議する。	
	I n t e g r a t i o n 科目	グ ラ ー ツ 大学	Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development	本科目ではエネルギーと持続可能なライフスタイルについて具体的なケーススタディに取り組む。さまざまな連関を理解するため、履修者は特定のサブテーマごとに小グループに分かれる。資源活用、都市化、エネルギー効率などのグローバルな論点に関するテーマと問題の学際的つながりを、より小規模な地域のスケールで考察していく。（個人的な）エネルギー利用のコンセプトも、サステナビリティ全般のテーマと同様に議論対象とする。	
		グ ラ ー ツ 大学	Social Competences for Managing Sustainable Development	持続可能な開発に関わるマネージャーとプロフェッショナルには、経済、環境、社会の分野で学術的・学際的な知識が求められているのみならず、より持続可能な世界を目指す変革を管理運営し、貢献していくためのスキルと社会的能力も求められている。 プロジェクト、プログラムおよびイニシアティブの設計、プロジェクトの管理、リーダーシップ（の共有）、学際的・分野横断的チームの調整、ステークホルダーの参加、相反する利害への対処、効果的なコミュニケーションなどが管理運営のタスク例である。これらのタスクでは持続可能な開発についての専門的能力に社会的能力が加わることでポテンシャルを十全に発揮することができる。 持続可能な開発に関する実際のテーマ、ケーススタディ、そして履修者のニーズの現状を踏まえ、持続可能な開発の管理運営に必要な社会的能力を選び、討議と訓練を行う。	

科目 区分		開設 大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	I n t e g r a t i o n 科 目	グ ラ ー ツ 大 学	Master Seminar	修士論文の作成と並行したセミナーを共同で実施し、知識の相乗効果と意見交換により修士論文の質を互いに高め合う。 (1 Baumgartner, Rupert) サステナビリティマネジメント、循環経済の観点からフィードバックを行う。 (5 Posch, Alfred) イノベーション研究、再生可能エネルギーの観点からフィードバックを行う。 (2 Stern, Tobias) バイオ経済、イノベーション研究の観点からフィードバックを行う。 (3 Füllsack, Manfred) システム科学、デジタル変換の観点からフィードバックを行う。	共同
			Master Thesis	修士論文を作成し、口頭試験を行う。 (11 Brudermann, Thomas) 持続可能な発展、意思決定に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (1 Baumgartner, Rupert) サステナビリティマネジメント、循環経済に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (5 Posch, Alfred) イノベーション研究、再生可能エネルギーに関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (2 Stern, Tobias) バイオ経済、イノベーション研究に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (6 Aschemann, Ralf) 循環経済、サステナビリティ評価に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (12 Rauter, Romana) ビジネスモデル、持続可能なイノベーションに関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。 (3 Füllsack, Manfred) システム科学、デジタル変換に関する修士論文作成の指導を行い、口頭試験を行う。	